昭和49年度

高槻市文化財年報

高槻市教育委員会

はじめに

本市は古くから文化の栄えた地であり、わが国 の文化・歴史の理解に欠くことのできない文化財 が豊富に残されております。これらの貴重な文化 財は近年の急速な都市化によって開発と破壊の危 険にさらされながらも今なおその姿をとどめてお ります。この貴重な文化遺産を永く保存し、後世 に伝えることはわたしたちに課せられた責務であ ります。

このようなことから、本市は昭和44年10月 に文化財保護条例を制定し、その保存・保護につ とめておりますが、その一環として、昭和47年 度より建造物1件(昭和47年度)、古文書3件、 民俗資料1件(昭和48年度)を市指定文化財に 指定し、その保存につとめてまいりました。さら に本年度は美術工芸、建造物、天然記念物等の各 部門において基本調査を実施し、その資料化を図 っております。また、今年度は待望の仮称埋蔵文 化財調査センターの新築工事が着工され昭和50 年9月末に完成予定であります。

この文化財年報は、昭和49年度に実施した各 調査の概略をまとめたものです。今後の文化財保 護の指針として活用いただければ幸いと存じます。

なお、との文化財年報の刊行にあたり、ご協力 をいただいたかたがたに厚くお礼申しあげます。

昭和50年3月

高槻市教育委員会 社会教育課長 橋長 勉

次 目

I	文化	財	の調査1
	1.	建	造物1
	2.	美	術工芸3
	3.	古	文書4
	4.	天	然記念物4
	5.	埋	蔵文化財12
П	高槻	市	立仮称埋蔵文化財調査
			センター概要20
Ш	高梯	市	文化財一覧21
			-
IV			版
		1	清福寺太子堂、正徳寺
			妙楽寺・神宮寺
	PL		原峠の化石層
	PL		原峠の化石層
		5	道鵜町淀川河川敷のヨシ
		6	道鵜町淀川河川敷のヨシ
	PL		市内調査位置図
	PL		市内調査位置図
	PL PL 1		塚原古墳群 塚脇古墳群
	PLI		塚脇古墳群
	PL1		
			嶋上郡衙跡
	PL 1		嶋上郡衙跡
	PL 1		嶋上郡衙跡
	PL1		嶋上郡衙跡
	PL1		嶋上郡衙跡
	PL 1		宮田遺跡
			宮田遺跡
	PL2	0	天川遺跡

| 文化財の調査

1. 建造物

所 在 地 高槻市清福寺町

名 称 清福寺太子堂

清福寺は旧芥川村に所属し、阿久刀神社の東南、芥川の流れに近く位置した農村集落であった。この近年における農地の宅地化によって新築の住宅群で周辺が埋められ、かつての景観は大きく変化している。旧集落のほぼ中心に位置を占めて観音堂(公民館)が建ち、それに接して小広場がある。この広場の奥に東面して小さな仏堂がひっそりとたっている。

この小堂が今回の調査の対象である太子堂である。規模は一辺が約2.35 mの正方形平面で、柱間は正面1間、他の三辺は2間、正面にのみ両開き双析棧唐戸を装置した戸口をそなえ、南側面東寄に内開き板戸をそなえる他は、南・西・北三面は土壁で閉ざしている。柱は面取角柱で石土台上にたち、地長押を四方にまわし、正面をのぞく三面に内法長押をまわす。正面では柱間中間をつないで虹梁仕立の指鴨居を通している。その下端に軸穴を穿ち桟唐戸軸上部を取付け、戸軸下部は藁座でうけている。各柱頂部を繰形絵様木鼻をもつ頭貫でむすび、柱天に出三斗を組み瓦桁を支える。軒は一重繁垂木で、隅で強く反り上げている。屋根は本瓦葺・宝形造りで、頂部に露盤を据え、宝珠棟飾りを置く。隅り棟の先端を鬼瓦で飾るが、その側面に「文化九稔」の刻銘が読みとれる。

堂内は板敷で奥に寄せて奥行 0.67mの仏坦をつくる。左右脇壁の仏坦前縁位置で壁に沿って柱をたちあげ、柱天に出三斗組をすえ、実肘木で天井縁を支える。さらに、虹梁をこの側柱間にかけわたし、梁中間に平三斗を組み天井縁の中間支点をつくり、 当共間の小壁を板壁につくり、 仏坦の内外を仕切っている。仏坦前面の外陣は棹縁天井につくる。仏坦後壁中央に花頭口をかまえ、その奥、堂背壁より後方へ突出して釣仏垣をつくり、そこに春日厨子を安置している。 因子内部には聖徳太子少年像(木彫・彩色)が奉安されている。

さて、この太子堂の遊立由緒や年代についてはこれまで 世間に紹介されることがなかった。今回の調査で入手した 資料とあわせて紹介しておきたい。清福寺集落は江戸時代 において村びとたちが大工職人技術者の集団からなり、い わゆる大工村であったことを伝えている。畿内および近江 の六ケ国の大工・柚・木椀職人は幕府京都御大工頭中井氏 の支配に属し、御所・幕府関係の建築作事に国役として奉

仕する義務を課せられ、その居住する地域毎に大工組が編 成されていた。大阪府北部と兵庫県東部の大工職人は摂州 十組大工として組織されていたが、その十組は清福寺組・ 福井組・小野原組・岸部組・池田組・勝部組・伊丹組・昆 陽組・鴻池組・小浜組からなり、高槻市では清福寺組が十 組のうちの一組であった。清福寺組に関する古記録は今日 まで摂州十組関係資料に散見するだけに止まり、その実情 を知ることはむづかしい。今頃の清福寺町の古集落がかっ ての清福寺組大工たちの本拠であったことを立証する資料 は現在まで知られていなかった。今回の調査において清福 寺太子堂の造立由緒と年代を知る資料として同堂棟札が現 存していることが判明した。即ち, 同地居住の寺田銕浩氏 が保管されており、かって堂屋根を修理されたときに屋根 裏より取出されたもので、縦0.721m、巾0.209m、厚0.09 m,鎬つきの大きさをもち,その表と裏二面にわたって銘 文を墨書している。棟札に記された内容は,まず「表」面 では天下泰平・五殼成就・城主長久・村内繁昌のために、 聖徳太子を納めたてまつる堂を造立すること, そして明和 二年(1765)酉十一月十五日に上棟したことを明らかに する。(註)次に造立関係者として世話人六左衛門を筆 頭に「大工棟梁村中」18名,「村惣大工」5名,「大工 若中」5名を上段2列に記し、下段2列に「村百姓中」20 名の名前を列挙している。また、「裏」面では造立の趣旨 として, 芥川村清福寺五社明神境内に往古より小社の跡に, 一間四面の太子堂を此度造立したことを記し、寺社御奉行 (2), 芥川村庄屋(2), 大工組頭(1)と年寄(3) そして清福寺年行司(2)を四段に分けて名前を列挙して いる。この文面から知られることは、寺本氏の話では堂が 現在たっている位置は当初からではなくて、後世に移動さ れているということを裏づけており, 五社明神社は今日で は阿久刀神社境内に合祀されており現存していないが, 旧 地は集落の西端に所在していたので、その境内の小社跡に 造立された太子堂は現在地へ後世に移動されていることが 知られる。太子堂の造立施主は大工職人と村百姓の両者か ら構成されるが、大工たちの連名が上段に記されていると とは施主の主体が大工たちであったろう。そして大工の人 数が29名で村百姓人数20名を上回わっていることも異 例である。なお、これらの人たちは広く芥川村に居住して いたことはたしかであるが、清福寺集落に限定してよいか どうか疑問がもたれる。芥川村民であっても村百姓の場合 は20名という数はすくないようで、一部の賛同者にかぎ られたのであろう。しかし,大工人数の場合は当時の農村 一般例では多人数であり、村内に大工集団が存在したこと を明白に物語っている。これらの大工職人たちは惣大工と

呼ばれる指導者と平均的な大工棟梁たち、そしてそれ以下 の若者たちのグループに分れていた。しかし、大工組の組 織においては組頭と年寄からたる役職者がおり、組頭は惣 大工のうちから、年寄は大工棟梁のうちから選出されている。 次に、大工職人と聖徳太子の関係について付言すると、 聖徳太子は大工職人にとってその業種の始源神にあがめら れた存在であり、大工仕事の繁栄を祈願し、職人たちの結 束を固める象徴的存在として信仰されていた。京都市中の 大工二十組仲間では毎年2月と8月の22日の両度に定例 客合が開催され、物組の総会と費用勘定が行われており, この寄合を太子講と呼んでいた。寄合内容では既に 変質したものになっているが、寄合の名称・定 例 開催日 を太子の正忌日または月忌日にあてているところに、寄合 の発生が大工仲間の太子信仰にもとづいたものであったこ とを思わせる。このような京都大工組における太子信仰の 変質と形骸化に比較すると, 清福寺組では太子のための堂 が浩立されており、その組仲間による太子信仰は持続され, --層強化されていると言える。これは京都のような都市を 職域とする大工たちと農村や宿場を職域とする清福寺組の 大工たちの条件の相違がその組織の面に大きく影響してい ることを示している。

大工組の組織は幕府の消滅によって解体され、近代とく に戦後の変革の進行は都市近郊農村を大きく変貌させた。 清福寺集落もまた例外ではなく、かっての集落の歴史は人 々の記憶のなかではるかに遠い存在になってしまった。そ の由緒や歴史は見失われているが、集落のなかに太子堂は なおその姿をとどめており、毎年の太子の正忌日には供養 が住民によって持続されている事実に注目したい。

(註) 伊丹市鴻池居住の松原久一郎氏所蔵文書のうち,明和2年3月17日の覚書に、同日清福寺大工組々頭と年寄が清福寺村に一間四面の太子堂建立のために、摂津七組大工象中へ奉加寄進を依頼のために鴻池組々頭を訪問した記事がみえ、堂造立経費の調達は村内だけでなく、広く摂津国の大工組々にも募金したことが知られる。

所 在 地 高槻市西面

名 称 正徳寺(真宗西本願寺派)

旧西面村築落のほぼ中央に所在する。寺蔵「凌雲山墾徳寺累代系譜」によると、当寺は行墓の開墓と伝え、のち高野山末寺に属し真言宗寺院であった。室町時代の長享頃(1487~89)に当時の住持が蓮如上人に帰依し、明応6年(1497)7月18日に蓮如が当地を訪ねた折に、六字の名号をみずからしたためて住持了専に与えた。その後永正3年(1506)3月9日に実如上人から六字名号をさず

かり、それ以後は真宗に帰入し道場に転じたと言う。江戸時代の寛文6年(1666)2月に従来の山号を廃し、寺名も正徳寺に改称され、今日にいたっている。

境内には表門・本堂・庫裏・太鼓楼が存在するが、庫裏が改築された機会に本堂の修理を予定されていて、本堂の調査を市教育委員会へ依頼されたので、今回の調査を実施した。本堂は元禄14年(1701)に旧堂を改築したものであり、その事情を記した祈禱札がのこされているとのことであったが、所在不明のため今回は調査できなかった。

本堂規模は桁行9間,梁行6間,妻入り屋根茅葺(トタン板で覆う)入母屋造り、四方に本瓦葺の下屋庇をまわしている。正面1間通りを柱間吹き放しの広縁(枠縁天井)とし、両側面に雨縁をそなえ、正・側三面に縁柱をたてている。正面中央に昇降階をそなえるが、向拝をつくらない。

堂内は正面5間,奥行5間を外陣とし,そのうち,両側 より1間内へ入込んだ位置に桁行方向にたつ柱列と小壁で 中央間と左右脇間の三室に仕切られる。外陣の正面と両側 の三方縁境は1間毎に柱がたち、各柱間とも2枚のガラス 障子に変っているが、当初は板戸であったという。外陣中 央間の奥正面に内陣がつくられ、内外陣境の柱間3間はと もに上部に彩色付彫刻欄間、その下方に双折唐戸障子を装 置する。外陣左右脇間の奥は余間につくられるが、この余 間と外陣の境仕切の位置は内陣と外陣中央間の境仕切位置 より間半分後退している。この境仕切の喰違いは内陣を後世 に前方へ間半分拡張したことによる。内陣は正面3間,奥 行2間半で床は拭板敷で外陣より一段高い上段間となり, 棹縁天井に仕上げる。内陣中央後方に寄せて来迎柱が建ち, その前面に須弥壇を据え、宮殿厨子を安置し、本尊阿弥陀 如来(木像)を祀る。来迎壁の背後,内陣背面側柱間中央 1間は現在2枚の引達障子立になっているが、当初には板 壁で閉ざされていた。この背面戸口の左右各1間は脇仏坦 につくる。この脇仏坦も後世の改変になるもので、来迎柱 にのこる仕口痕から推定すると、来迎柱の位置まで脇仏坦 が進出し、また左右脇仏坦とならんで来迎柱間の中央間も また奥行間半の仏世につくられていたらしい。現状におけ る須弥増は後補のものであり、須弥壇を新造して、本尊仏 を安置するような変更が後世に行われて現状が出現したと とが判明する。内陣の外陣への拡張も同時の変更で、須弥 壇を据えつけたことで, 須弥壇前方のスペースを拡張する ことが必要になったためであろう。内陣左右の両余間のう ち、北余間は落間、南余間は内陣と同じ床高をそろえ、い ずれも, 小壁・三本蘑建具で間仕切られる。南余間は現状 ては背壁に脇仏坦をそなえるが、この背壁・脇仏坦ともに 後世に変更されたもので、当初は内陣の背面側柱通りにそ

ろえて間仕切建具がたち、六畳敷の座敷であった。この旧 六畳の南につづいて六畳座敷があり、この両六畳をあわせ てかって書院と呼んでいた。

当本堂は元禄14年に造立され、今日までの間に内陣まわりが改造されたが、外観・内部ともに古い形式をとどめており、農村集落内に立地して、真宗寺院の本堂化する以前の道場形式を良くのこしているものとして注目される。また、近世における3間梁の規制をうけた寺院本堂のとるべき姿として、架行3間の身舎を中核とし四方に1間半の瓦葺下屋庇(当時の仕様では「しころ庇」と呼んでいる)をつけ足して構成される堂形式を当本堂の外観に良くのこしている。なお、内陣須弥壇上方四隅の天井緑に滑車がつけられており、洪水の際に浸水の被害から本尊仏を守るため、須弥壇とも上方へ引揚げるための装置であると伝えている。淀川に近く、しばしば洪水に襲われた経験から生れた水難除けの工夫がらかがえ興味深い。

表門は薬医門形式で、本棟と降棟の各鬼瓦の刻銘に「宝暦四戌六月上旬、瓦師西五百住村源兵衛」とあり、宝暦 4年(1754)の造立と考えられ、本堂より約半世紀おくれる。

本堂内陣の脇仏坦に安置されている親鸞上人画像は裏面に「釈良如、正保二載酉九月,摂州嶋上郡西面郁惣道場,本願寺真鸞上人御影」と記される。また,南余間の仏坦に安置される蓮如上人画像は同様に裏面に「蓮如上人真影,釈良如(花押),慶安四舊卯十二月二六日,摂津国嶋上郡西面村正徳寺」と記入されるが、この墨書部分は表装を改めたときに切貼りされている。

2. 美術工芸

所 在 地 高槻市大字杉生

所 有 者 高槻市大字杉生 妙楽寺

名 称 木造十一面観音立像 一軀

像 高 1.297 m

概 要

頭上に十一面(らちら面欠失)をつけ、左手屈臂して持物(欠失)を執り、右手垂下、條幕を懸け、裳をつけて立つ十一面観音の立像である。彫りが浅く、穏やかな表現をみせているところから、藤原時代末期12世紀の作とみられる。作風は当時の中央作すなわち京都風に近いが、丹波地方に多い藤原彫刻と一脉通ずるものが感じられ、本寺が亀岡と境を接する高槻市の最北辺に位置している点からもこのことが首肯される。

ヒノキ材寄木造で、内刳、派箔を施とす。構造は頭体を 1材で造って、三道下で上下に割り知ぎ、頭部は耳後ろの 位置で前後に割り矧ぎ、後頭部に小補材 1 を加える。体部の背面は、左右 2 材を寄せ、左は肩。肘・手首、右は肩・手首でそれぞれ矧ぎ、右肩外には小3 材を寄せる。

保存状況は、左肘より先、右肩先、左裾外側部、両足先 (足柄を含む)などが後補で、現状は全般に矧目が弛み、 一部は解体状況にある。明治29年の山崩れで、堂宇と共 に破損し、その後修理を行っていないという。

所 在 地 高槻市大字田能

所 有 者 高槻市大字田能 神宮寺

名 称 木造大日如来坐像 一軀

像 高 0.955 m

概 要

神宮寺は現在廃滅の状況にあるが、像は本堂(廃屋)の 横手の堂に安置されている。螺響、腹前で定印を結ぶ胎蔵 界の大日如来坐像で、寄木造内刳、彫眼、添箔、作風はや を硬いが、藤原時代末期12世紀の作とみられる。

構造は、頭体前後2材を耳後ろの位置で矧ぎ、三道下で上下に割り矧ぎ、腰脇に三角材を寄せる。肩・肘・手首で矧ぎ、両足部は横木1材、裳先を別に寄せる。

昭和35年に全面修理を施としているので保存状況はよい。本体は両手首先・裳先部および宝馨一部・天冠台正面・白毫・冠帯などいずれも後補。下腹部から地付に及び前面材新補。光背・台坐後補。

(神宮寺は近く現在の位置から少し南へ新築移転される 予定である)

所 在 地 高槻市霊仙寺

所 有 者 高槻市霊仙寺 霊仙寺

名 称 木造毘沙門天立像(本堂安置) 1 軀

像 高 (餐頂-邪鬼) 1.188 m

左手に宝塔を捧げ、右手に戟を執り、邪鬼を踏む半等身 大の毘沙門天像で、寄木造内刳、彫眼、温和な風貌をそな え、正統属する彩色像で、鎌倉時代後期の作とみられる。

構造はかなり細かい木寄せにより、本体は、頭体の前面を1材で造り、首で割り矧ぎ、後頭部と体部背面とに各別材を当て、両足は前後2材で造って体部へ差し込む。両肩、両手首で矧ぎ、譬、 篆石端など小矧木が多い。 邪鬼は通例のように内刳がなく、頭体と右脚の大部分を含めて1材で彫成、小片5材を寄せる。

保存状況は、本体の右腿部外側、両天衣遊離部、邪鬼の 左肩先、左膝先、右腿部外側および台座のすべてが後補で あるが、全般に当初部分がよく遺っている。矧目はほとん と触み、瓦解の怖れがするので緊急に修理を要する。...

3. 古文書

所 在 地 高槻市西真上1丁目11-13

所 有 者 中村隼造

中世末期の史料で内容は「摂津国真上村田地注文」異本 の写本である。(江戸初期の写本)

4. 天然記念物

原峠に露出する化石層

所 在 地 高槻市原

概 要

校方亀岡線バス道路を北上し、東側に安岡寺 4 丁目、西側に松ケ丘団地住宅のはずれが原峠で、市バス停留所がある。この峠のバス道路面は海抜 1 20 mである。北方は下り坂となり、右折し東条を経て田能、亀岡市に通ずる要路となり、東側は安岡寺 4 丁目の住宅地に入り、西側の下り坂道は西北に曲って原下条橋及び摂津峡大橋に通ずる。この峠の東北部の山地と、その西側には道路沿いに、造成で削られた地層がはつきり露出して見られる。この地層は高槻礫層と命名されたが、京大の上治寅次郎博士は未だ調査研究が不充分であるといわれている。 茨木市の大阪層群下部に当る茨木層に対比するところがある。其れは海寝貝化石の出土から見られる。又、わずかではあるが植物化石から山城の城陽礫層、乙訓層にかている処もある。(第1表)

永い年月の間に、各地層については先人学徒の研究に由る業績により、各自命名されているので甚た複雑である。 将来の研究のために充分でないが、淀川水系水域の西部を 中心として丘陵地帯の更新世一鮮新世である地層の対比表 を参考に示すと次の如くである。(第2表)

この地圏のあるところ、古くより人類の住む処となり生活の場所とし栄えた。南面して眺望よく、続く平地には淀川水系が流れて魚貝類の漁猟は多く、地味豊かで平地は農 耕文化が栄えた。従って平地より丘陵地帯までは遺跡地が 多い理由である。

わずかな日数の調査であるが、原峠の化石層の出土化石 は次の如くである。

- 1. Scutus scapha(GEMLIN)=Scutus sinensis(BLAINVILLE) オトメガサ
- 2. Phaladidea(Penitella) Pemita(CON-BAD カモメガイ
- 3. Gastro chaena grandis(DESHAYES) コゾツガイ(接管)?
- 5. Ostrea(crassostrea) nippona SEKI

イワガキ

- 6. Ostrea(crassostrea)vivularis(GO-LILD) スミノエガキ
- 7. Anamia lischbei DAUTZENBERG et FISCHER ナミワガンワ
- 8. Aadara(Tegillarca)granosa bisenenisis SCHENCK et REINHART 24 #4
- 9. Bitlium craticulatum GOULD ケシカニモリ
- 10. Tonua perdix(LINNAÉLIS) ウズラガィ 等二枚貝 8種,巻貝 2種,何れも現生種の海棲種で、沿岩 礁性及び砂泥底性のものである。
- 11. Pterocarya rhaifolia SIEBOLD et ZUCCARINI サワグルミ
- 12. Acer palmatum THLINB ERG カエデ(葉)
- 13. Zelkova Clngeri KOVATS ニレバケヤキ (葉)
- Palicirus nipponicus MiKI コウセキ ハマナツメ(枝・棘)
- 15. Rosa akashiensis MIKI アカシサンセヨ バラ(茎・根)
- 16. Scheffera(Agalma)fasciata MIKI アカシフカノキ(葉)
- 17. Pinus densiflora SIEBOLD et ZuC-CARINI アカマツ(材片)

植物に於ては現生種3種と絶滅種3種を認めた。今後の努力により、ますます増加するものと信ずる。今猶続けて調査研究中である。

昭和41年8月20日、原峠の切り下げ工事の時、現場 附近の宅地造成附近で、児島武利氏により、ワニ脊椎骨 18個、肋骨片20数個の化石が12元2内の粘土層から発 見され、1頭分のものとみられるが、大阪市自然科学博物 館で、復元、研究されている。

高視礫層の化石は旧山城湖の湖沼堆積物であると思われているが、古生層上に広く分布する礫層で、最高2600mまで達する。ワニが出土した地層は第三紀、鮮新世上部、大阪層群の第一海成粘土層である。(第3表)

原峠の化石含有層は枚方-亀岡線のバス街道の要路面に あって、一見して見られる。京都府が天然記念物として指 定した黄檗山山裏の状況に比し、本市のものは市民の認め やすい位置にある。

道鵜町淀川河川敷のヨシ

所 在 地 高槻市道鵜町

概 要

市内のクドノ(道鵜)町淀川北岸の河川敷にヨシ類の群生が上牧町まで続いて狂大な景観である。住時は西国街道から道鵜(鵜殿)・上牧の間のヨシ原を通って、対岸の枚方へ渡る渡舟があって、交通の重要な要路であった。今は僅かに道標が残っているにすぎない。淀川堤防の改修工事が完成したため、遠方の山城・巨椋方面の被害がなくなったが、河底は次第に低くなった。故に河原のヨシ原が浸水することも年に数回というようになった。堤防外からはコンクリートの水路を通って淀川に注ぎ込むだけである。雨期出水時増水でヨシ原が浸かる時は、水路を通って淀川の水が堤防外に流れ込み、魚類等は年何回か往き来が出来るのである。

この河川敷,即ち河原のヨン類群生地のヨシの種類は第 1表の如くである。

ヨシ類3種共多年生植物で、そのうちツルヨシは荒地の砂礫地を好み、川の上流地に多く、時に山間の砂礫地にも自生する。ヨシ及びウドノノヨシは下流の肥沃地に自生する。ヨシが優位で、ウドノノヨシは其の周辺の水際に多い。ヨシ類中最も稈が太く、地上茎の稈に枝を生ずるが、他のヨシ類には出来ない。ヨシ・ウドノノヨシは深い。分布上からみて、暖地性のものが、冬期に寒い本州中南部まで分布できる理由は地下茎が深く、越冬しやすいことが原因である。地下茎の浅いヨシが繁殖すると、これより優位となるから、ウドノノヨシは自生地域も狭く比較的周辺に多い。ヨシ類の稈は艫が中空になって竹と同じようになり、葭紙を生ずる。ヨシ・ウドノノヨシの地上茎の稈は直立し、当地では4m近くに達する。

ョシ類の葉は葉柄が葉鞘となって稈を包み、葉片が左右に出る。稈に対する葉片(葉身)の角度は次の第2表に示すが如く異るから、其の姿で3者を簡単に区別することが出来る。

ヨシ類ではないが、ヨシタケはウドノノヨシより狂大で、 稈は柔かく、葉は黄緑色の水辺を好む植物で、共化暖地性 である。地上茎には枝を生ず。又、ススキ類Miscanthー usに属するオギヨシ即ちオギは、稈が極めて細いが、そ の表面に光沢があって硬い。共に稈の髄は充実して、ヨシ 類の如く中空にならない。ヨシ類と類似種の形態比較を示 すと第2表の如くであるから、詳細に比較されたい。

植物体の中軸となっている部分を普通茎 stem と称するが、其れには草本茎 stalkと木本茎 stemとがある。普通草質のものを茎、木質のものを幹という。これに節tonusがあって、節と節の間を即ち節間 internode

という。普通中空であるものを特別に稈 culmas(halm) と名づける。この茎の内部の脈管束(維管束)nusrular bundleに囲まれた組織を髄hithと称せられる。 多くの場合比較的大形な柔組織細胞 parenchyma cellsからできている。時に石細胞stone cells. 繊維細胞 fibreと称する特種な有膜細胞を混じて髄層維 管束medullary layer vascular bundle. 樹指溝resins perforationを有することもある。 稈の若い時代、細胞中に澱粉粒、糖類等の貯蔵組織となり、 サトクキビ Saccharum officinarum LINNEA-US, サトウモロコシAndropogon Sorghum BRO-T. var saccharatus KOERN等の精分は大部分 この髓細胞中にある。故に稈の若い時代は柔いから、カイ ガラムシ(介殼虫)科CoccidaeのEriococcus, Asterolecannium Aclerda, Chionaspis spp等, 或はキジラミ(木 器)科Psvllidae, コナジ ラミ(粉 器) Alevrodidae等の害虫が発生すると程 の成長を阻害して不良となる。従って後に述べる葭紙にも 影響し, 又稈材も汚れて洗滌が必要となる。現在高槻市の カヤには悪質のカイガラムシが葉鞘 leaf sheath 中 に発生しているが、薬剤では効力なく、これを駆除するた めにも、当分は冬季の原焼は必要で中止することはできな い。茎稈が老成するに伴い細胞は自然に崩潰する。キリ Paulownia tomentosa STEVEDELの如く発育 途中に一部空隙を生じ、ユズリハ Daphniphyllum macropodium MIQUEL の如く階段状の鑓の生する ものもあるが、ヨシ類、タケ類では全く空洞化する。髄組 織の中でカミヤツデTetrapanax papyriferum K,KOCHは巨大な白色均一の髄を生じ、通草紙として色 紙造花,水中花或は昆虫標本用針台,飾り盆に使用されて いる。=ワトコSambucus SIEBOLDIANAの髄は顕 微鏡に用いる植物組織の切片用料に使用する。その他ャッ FFatsia japonica DECAISNE et PLAN-CHON, 89/4 Aralia elata SEEMANN, 113 ネウッギWeigelagrandiflora FORTUNE アカ ザChenopodivm centrorubrum NAKAI,キク イモHelianthus fuberosus LINNAEUS等 が使用される。ヤマブキKerria japponica A,P DECANDOLLEの髓は山吹鉄砲, 酒中花, 水中花に用い、 イ(トウシンソウ)Juncas decipiens NAKAI は燈心用として古来より広く使用されている。その他製紙 の起源として考えられるカミガヤツリ gyperus papyrus LINNAEUSの麓は縦横に重ね、注水後、圧搾乾燥 し、これをパピルス紺と称して使用する。

ヨシ類、タケ類の髄は稈発育の途中破壊して中空となるが、破壊した髄細胞は稈の内腔周辺に被膜状に残存する。 これをヨシ類の稈から採取したものを葭紙と称して管楽器ショウ(笙)、ヒチリキ(篳篥)の響口の魔舌に響紙として貼る。ヨシは全国各地に広く分布自生するが、高槻市の淀川西岸産のものは最良とされ、宮内庁雅楽部用として用いられ、古来より秘事とされたものである。それは最も柔かい音響を出すと共に強さがあると思われる。

シチクBambusa Stemostachya HACKEL,ハチクSinoarundinara nigra OHWl var, Henonis HONDAから採る竹紙は明笛用とされる。台湾のケイチクPhyllostachys Makinoi HAYATAを原料として作った紙も竹紙と称し、或は雁皮紙、唐紙と言う。

ョシ類の稈葉共に蔵葺きにする。屋根葺き材料として、他にススキ類Miscanthns spp,オギMiscanthas sacchariflorus BENTIHAM et J.D.HOO-KER等の茅葺き、ムギ類Hordeum spp,1×類Ory-za spp等の藁葺き等の草葺に対し、ヤマハギ類Canm-abis satira LINNAEUS 裁培地では表皮、剝皮後の苧穀等も用いている。

稈の細いヒメヨシはスノコ(簀子)を作りアサクサノリ Porphyra yezoensis UEDA,その他苔類の乾操 用にするかまぼこ類を巻き、或は籠を作って魚干物を乾操 用にする。

稈の細きものをスダレ(艬)太きウドノノヨシ、或は混合してヨシズ(葭寶)を作る。夏期の日除用とし、通風があるので、その用途は極めて広いものである。氷壁、茶店、或は茶畑、園芸用に用い、数奇者は天井に使用したりする。或は料理店の葭屋小屋、中国ではジャンクの苫にする。又釋を押し潰し、扁平として、組編したものをルン(蘆蓆)と称し、天井、壁、屋根等に用いている。静岡市登呂の弥

生遺跡の住居址からも似たものが出土している。その他製紙原料に使用されている。中国では筍を蘆筍と称し、多少苦味あるも甘味あり、生食或はタケノコ同様の調理法によって、食用にする。アイヌは地下茎と若芽を常食とする。ョシの根を蘆根と称し、その煎剤は利尿、鎮吐、駆風、黄疽或は魚肉類の中毒に用いる。1回量は8~309である

以上の如くヨシ類の用途は非常に広く、特に高槻市のものは、由緒があって貴重である。年々全国各地、例えば琵琶湖周辺、関東地方で次第に自生地が減少する状況である。川原をゴルフ場或は公園遊園地となることをやめて往時の景観、この自然の壮大な自然観況の姿を保存する為めに、その一角を天然記念物として保存したい。境界には金網をし、みたりに進入することを止めたい。

又此処に棲むカヤネズミMicromys minutus ja ponicas THOMS は本州,四国,九州に分布す るも, 国内にはこのほかホンシュウカヤネヅミM mhndonis KURODA ツシマカヤネズミM.m.dokii KUR-ODA以外, 隠岐にも1種を産するが亜種名は不明である。 台湾朝鮮にも別亜種を産するが、その生態に就いて、詳細 な点が充分でない。本種は体長と尾長は等しく, 或は体長 より長い。その先端でヨシ類の稈を巻いて上下する。晩春 から初夏に互り、ヨシ類の稈上に葉をよせ合わせて小鳥状 の巣を作り、仔を5~10頭位い産む。巣は円く径8~9 cm士である。巣の高さは雨期に浸水せぬ高さに造る。その 高さによって、往時巨椋池附近では洪水の状況が擦知出来 たという。巣のある地上には縦横の穴を穿って、別な巣を つくり外敵から逃れ, 又, 夜間, 冬季の巣となる。故に原 焼きを行なっても全滅することはない。本種に似るものに, 体長より尾の短かいハッカネツミMus sppがあるが、カヤネズミ は人家に進入しない全くの野生種で、水辺の葭原のみで生棲する。

また堤防外の淀川に通ずる水路には天然記念物に近年指定された珍しいイタセンパラ(ビワタナゴ) Acheilongnahus. long ipin nus (REGAN)が生棲する。

原峠の化石層

第1表 高槻市北方丘陵地帯の鮮新世・沖積世の化石含有層例

区域	潜	厚さ(m)	走向・傾斜	備考
郡家西北部 (芥川沿い)	青色粘土層,灰色粘土層,褐色粘土層 15 m,砂層 7 m	22.0	NS, W16°	三島層
奈佐原, 高地 106 m	粘土層。一部砂質層	106.0	N40E SE10°	
継体天皇陵西北河岸	砂質·粘土層 9 m, 亜炭 0.1 m, 砂層 0.5 m, 礫層 3 m	12.6		大阪層群三島層
福井地区佐保川沿い	青色粘土層,砂礫層		N40E, SE60°	
上村附近泉原	青色粘土層,砂礫層,亜炭採掘層			
高槻北方 最高 260 mまで分布	孫層			高槻礫層
高槻礫層下部層	青色粘土層と薄い砂礫層互生す			三島層 (亜炭・植物化石)

第2表 淀川水系を中心とする北部丘陵地帯に露出する化合含有地層の対比表

				京都北	京都北部方面	京都東部		南部方面	京都西山方面		-大阪府方面	兵庫県方面
		地方到		 比数 品	国品級化品	體體:	京都東山梯、山	八幡 枚方方面	京都西山方面	高槻方面	大阪北部方面	明石方面
垫		*	(第 辺)		總 瓦为自 (上 治)	平右方面 (專 居) (中 汉)	枚方方面 (上 拾)	校上	数 五 一 石 石	(上借)	〔京 大〕	(鹿間)
	火曜刊	香 存 積 世 積 世 (現生)	沖質圏・ 収圧緩屑 (砂礫・粘土)	0.75	冲積層·段丘礫層 (砂礫·粘土)	并積極 (砂礫	沖積層·段丘礫層 (砂礫・粘土)		冲積層·段丘礫層 (砂礫・粘土)	许 (冲積圈· 段丘礫層 (砂礫) 粘土	冲積層 · 段丘礫層 · 砂礫)
展	4	推	伊香立礫層 70m (砂礫)	核野礫層 20m(+) (砂礫)	鲁岡礫層 30m(+) (砂礫)	城陽礫層 100m(十) (粘土:砂礫)	然山礫層 50m(+) (砂 礫) (海成層)	八幡礫層 枚方礫層 (砂 礫)	向日町礫層 80m(+) (砂 礫) (海樓貝化石)	高規發電 (砂 碳)	信太山礫層(砂礫)	播磨礫層 (砂 礫)
	B		古琵琶湖層 竜華層 180m (十)	層 - 乗寺層 10m(+) 粘土·泥岩,	[字 沿層 150 m (+)	中茶屋層 砂 礫 層		乙訓層 樫 原 120 m 石貝層		—————————————————————————————————————	明石層群明石類層
#	<u> </u>	(下 雅 田 東 華 田 華 田 東 華 田 東 華 田 東 華 田 東 曹 華 田 東 東 東 田 東 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田			£ % £	J	谷 口 層 堂ヶ原圏		植野貝屬 10 m 10 m	· 青色粘土 砂	11	
					(4 - 元)	(粘土·泥岩) 褐炭·化石	基底礫層 (粘·泥·褐·化)	(粘土・泥岩) 化石・褐炭	(海 樓) 砂礫層 (貝化石) 厚約9m		年後月17日	
		(上部鮮新世) 鮮 新 世		1951								> !
2	11.	〔中断層〕	着山作用・地塊運 衝動・断層	寶動 衝動・断層 (造山作用) 地塊運動	断 層 (地塊運動)	褶曲衝雪 (褶曲衝動·断層作用) (衝動断層) 運動 地塊運動	(地塊運動)	格曲·衝動 断層 (地塊運動)	褶曲·衝動 断層 (地塊運動)	断層 (地塊運動)	衝動·断層 造山作用。 地塊運動
	∰ 	等 新 世	80000000000000000000000000000000000000			級喜層 220m(+) 紀岩・練岩 擬炭岩・化石						群壓口食
7		MONTH OF THE PROPERTY OF THE P	MANAGEMENT OF THE PROPERTY OF	Terrando establistica do constituto de partir	A COLUMN TO A COLU	-	-				A	

茂川水系北部地帯丘陵地の化石含有層と出土植物及び動物比較例(原峠化石層との対比) 第3表

() () () () () () () () () (2020		THE CHARLES OF THE PARTY OF THE	With the commence that the control of the control o	аділосяти трологичення протоков протоков протоков под под под под протоков под	encompanion consequences.	STATES AND STATES OF THE	A PROPERTY OF THE PROPERTY OF	
() 1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	VIZIU (OVII)		×		Process	154	1の電波	排房封	· 世
	annament son	A. T.	eningen en e		2	植物数	200	II	687
(2) (2) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	TEC	题	古琵琶湖外	The State of the s	78.0	<u></u>			ジェガム・ヌマガイ・カラスガイ・ネバエボン・カタイエガイ・オオピワインガサノベ・キナギ・トウヨウゾウ・ピワインガ・インガイ・オネダーン・ナガターンテンロモミ・ヘンノキ・ウキンバ・タイワンプナ・ソロダモ・ツルヨン・クロセスギ・シリプトピン
# 2 2 3 2 4 2 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	TO SECURE OF SECURE AND SECURE OF SECURE AND		B	· 豫	超			*	クギマキ・ミクリ・ヒジ・シリプトピン・エピッル・ヤマフジ・ニワクルン・ハキ・カラノキ・アカンデ・サワラ・カンエピ・アカングミ・ブナ・コワセキブナイカチ・マンサク・クルミ・クロモジ・ホオノキ・ヘス・コウオキハマナツメ・ツミゾヒキモ・ヒロハノエピモ・トガサクラ・アカンサンショバラ・ムクロゲ・コキンハボ ・イヌシデ
 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	.007007000070400000000		E E		+1			K	ンノキ・ホオノキ・ハス・ホソバミヅヒキモ・ヒロハノエピモ・コウヤマキ・ミ・ヒン
 	低	·		湯の花屬	料			*	ンノキ・サワラ・コウセキブナ・クロモデ・ホオノキ・ヒロハノエピモ・トガサ・ミクリヒシ・シリブトヒン・シリプトピン
南 部 辛 品 8 日 本・ 株田 オニナルコスゲ・カイが・ブナ・キャンマナ・・カウンボク・モクセイ・シウキ などがある。 南 部 中 治 園 地土 脳 12 衛機具・15 (本・ 株田 オニナルコスゲ・カイが・ブナ・シキシマナ・・ハウリンボク・モクセイ・シウキ などがある。 南 部 中 赤 超 上 園 砂土 園 12 衛機具・15 (本・ 株田 オース・ハス・・スプ・・カリンド と)・クヤキ・アカガイ・スノアカガイ・スロー・と) 西 部 本土 層 6 本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			養		+1		mix	¥	マナッメ・ナンキンへで。ヒン・キンギョモ・ハス・オニバス・コスケ・カンガ・ハマゴウ・モッフクブナ・コナン・ヨン・オーナルコスゲ・クスギ・エゴノキナクイムン
南 等 治 優 本 ・ 鳥居 12	异			谷口及附近	帮	ග		*	ス・ヒジ・ハマナッメ・ブナ・ホオノキ・エゴノキ・マッ・ッ
西部			# #		++		海樓貝•15	三木・鳥居小倉・中村	ニナルコスグ・カイガ・ブナ・シキシャブナ・ハクケンボク・モクセイ・ソラキマツ・ナンキンハゼ・エゴノキ・シリプトヒン・ケヤキ・アカガイ・スノメアカガケノコガイ・セタンジミ・カガミガイ・ヒメンラトリ・ナガカキ・スダレガイ・ヤガイ
西 部	4				松十	9		*	ナノキ・ハス・ハマナツメ・ナンキンハゼ・ヒ
西部 C 訓 層 乙訓層上部 粘土 層 6 三木・宇野 プキ・ヒシ・ヌマガイ・カラスガイ・サナノハ・インガイ・タニシ・イクチョウ 西部 C 訓 層 大原層時 6 三木・宇野 ブナ・ハマナッメ・ヤナギ・ナンキンハゼ・モクコウ・ケヤキ 校 香 長尾 9 三木・宇野 ブナ・ハマナッメ・ヤナギ・ナンキンハゼ・モクコウ・ケヤキ・ハンノキ・ヒシ・ 校 香 東口・別所 砂泥 層 9 三木 モミ・サフラ・ハス・マルシリエピシ・エゴノキ・ノハナショウア 市 里 東口・別所 砂泥 層 10 引田 ヒンキ・サワラハイネズ・シキシマネズコ・オーグルミ・イフ・ファイス・ファイ・カルスペリ 市 里 佐 公 溪 シルト層 8 引田 クロマツ・ランダイスギ・ヒノキ・シギンマネズコ・オーグルミ・タイワンブナ・クスギ・コンズA				堂ケ原層	中中	89		*	ンノキ・ミズキ・ヨシ・アカマツ・スモモ・エゴノキ・コウヤマキ・ヒ
西 部 乙 訓 層 本計 層 6 三木・字野 ブナ・ハマナッメ・ヤナギ・ナンキンハゼ・モクコク・ケヤキ・ハンノキ・ヒジ・ マガイ・カラスガイ・イケチョウガイ・サナノハ・インガイ・ケニン 枚 香 東口・別所 単 四 節				2訓曆上部	구 많	N	ďζ	₩	ラキ・ヒン・スマガイ・カラスガイ・ササノハ・インガイ・タニン・イケチョウ・ンラキ・ヒン
校 香 E R 放水月・6 三木・字野 ブナ・ハマナッメ・ヤナギ・ナンキンハゼ・モクコヴ・ケヤキ・ハンノキ・ヒジ・ マガイ・カラスガイ・イグチョウガイ・ササノハ・イジガイ・タニシ マガイ・カラスガイ・イグチョウガイ・ササノハ・イジガイ・タニシ マガノ・カランダイスギ・スキ・ノハナショウブ 市 里 本 によりカランパイ・イグチョウガイ・オープル・インコウオー マフランロモミ・マツハダ・ランダイスギ・スキ・メタセコイア・コウオマ マフジ・キハダ・コナ 市 里 松 方 層 10 日田 レノキ・サワラハイネズ・シキシマネズコ・オニグルミ・ヤマフジ・キハダ・コナ 市 里 松 方 層 3 引田 フロマツ・ランダイスギ・サルスベリ 市 全 シルト層 8 引田 クロマツ・ランダイスギ・レキ・シギンマネズコ・オニグルミ・タイワンブナ・クスギ・ゴンズA	acaveno bros		篇 2		格出	9		*11	ナ・ハマナッメ・ヤナギ・ナンキンハゼ・モクコク・ケヤ
枚 香 大阪				五二	4	œ		#	ナ・ハマナツメ・ヤナギ・ナンキンハゼ・モクコク・ケヤキ・ハンノキ・ヒン・ガイ・カラスガイ・イケチョウガイ・ササノハ・インガイ・タニン
枚 音 大阪	К		咸	and the same of th	命	6		*	ミ・サワラ・ハス・マルシリエピシ。エゴノキ・ノハナショウ
では、 では、 では、 では、 では、 にノキ・シギンマネズコ・オニグルミ・タイワンプナ・クヌギ・	B.		墨口		砂泥			H	こ。ワラジロモに。マツイダ・ランダイス半。スギ・メタセコイア・コウヤマキノキ・サワラくイネズ・ンキン4ネズコ・ユニグルに、ヤマフジ・キ・ダ・コナざ。シゲ・ショヤナギ。サルスペリ
	医		ধ		7	8			ロマツ・ランダイスギ・ヒノキ・シギンマネズコ・オニグルミ・タイワンプナ・クスギ・

枚方市 高 槻 市	区 城	阁			研究者	出土する植物及び動物の化石例・〔備考〕
枚方市 高 観 市	俰		-	1	_	
枚方市 高 槻 市	俰			福物数 劉物数		
2倍 極 概 压		大阪 層群 最上部	粘土層	8	三木・市原	コウヤマキ・モミ・トガサクラ・ツガ・サクラ・アスナロ・ハリケヤキ
	里	枚 方 屬 (橫池谷累)	パート層			チョウセンマツ・シラピソ・ハンノキ・モラピソ・ハシバミ・ツルユケモモ・ミッカシワ
	斷	大阪層群				オトメガサ・カモメガイ・コツッガィ・アガキ・イワガキ・スミノエガキ・ナミワガシワ・ハイガイケン・カニモリ・ウズラガイ・サワグルミ・カエデ・ニレバケヤキ・コウセキへマナッメ・アカンサンショウバラ。アカンフカノキ・アカマッ
E	別所	·	格士層	9	五	オニバス・ハス・ンモンミマップナ・コナンキンハゼ・クマヤナギ・ンキンマハロナッメ
	天神 山	大阪層群 上部	粘土層	6	市原・三木	ヒトツバタゴ・エゾイタヤ・エゴノキ
	大藏司	大阪層群 上第	ピート層	16		モミ・ウラジロモミ・ハリモミ・クロマツ・スギ・ミズメ・ハンノキ・アサダ・キハダ・フジ・ミッパウツギ・エゴノキ・ミズキ
	馬場	大阪層群 下部	垂炭層	COME glants	 	オオバラモミ・トガサクラ・バタグルミ・シキシマサワグルミ・ホオノキ・キハダ・フジ・ミッパケツギ・エゴノキ・ミズキ
兩米	道 祖 本 (さいのもと)	大阪屬群 上部	粘土層	海棲貝・13	市原	ハイガイ・サルボウ・シズクガイ・ウラカガミ・マガキ・トリガイ・アサリ・イセンラガイ・ナミマガンワ・イソシジミ・ヒメンラトリ・アワジチガイ
*	下離養	「入門者」「上屋」	松上屬	海樓貝·口	梶山	ゴイサギガイ・イセンラガイ・ツキガイモドキ・ウミケタ・マテガイ・トリガイ・チョノハナガイ・サルボウ・ハナガイ・シズクガイ
Æ	総帯寺	大阪層群	型十級	ಣ	引用	オオバラモ・ツガ・オニグルミ・タイワンプナ・シキシマナラ・ニレバケヤキ・カミエビ・ヤマフジ・ハスノハカズラ・カラスザンショウ・センダン・ミスキ・ワインハセ・ンナヒイラギモチ・ゴンズイ・クロタキカズラ・メグスリノキ
	新級	大阪層群 下部	上質圖	- The state of the	号 田	トガサクラ・メタセコイア・オオバタグルミ・シキシマハマナツメ
岳	山田八丁池	極極	砂粘土層	2	HH 5	モミ・ツブラジィ・イチィガシ・クスノキ・アカメガシワ・シナヒィラギ・モチ・モ チノキ・エピツル・シュシマハマナツメ・ヒサカキ・クロバイ・ハマヒサカキ
 田	出口・片山	大阪層群下部	** 上屬	e3 e3	祖	オオバラモミ・アカマツ・ランダイスギ・タチャナギ・ハンノキ・シキンマブナ・クスギ・コナラ・アキ=レ・ハス・マンモ・アガンサンショウ ベウ・ノイ バヴ・ヨン・フジ・クロイゲ・シキシマフジ・コナンキンへゼ・ソリプ・ピン・イボピン
E	鉄道官舎人口	大阪層群 下部 新田砂層	格士屬		市原	インガイ・ヌマガイ・カラスガイ・イボカワニナ・タニン
見田 七	瀬川 北古江妙薬寺裏	大阪層群 下部	格上圖	,	3 H	メタセコイア

道鵜町従川河川敷のョン

第1表 高槻市道鵜町淀川河川敷のヨツ類の種類比較表

2		谷.		4	生態	垂
g.	(李)	和名	異名		(自生地・その他)	
-	Phragmites Karka TRINIUS	SE//36	セイタカヨンセイコノヨシ	本州中南部, 弘国, 九州, 琉珠, Formosa, Korea, China, India, Maleysia, Micronesia, Australia	水湿地群生,河川下流を好む。 稈に小枝を生ず。 髄は中空である。	
. 23	Phragmites longvalvis STEUDEL	u y	アンクサタニングサ	北海道, 本州, 四国, 九州, 琉球 Sakhalin, Pomosa, (北半球温帯)	水湿地群生,河川下流を好む。 稈に枝を生じない。髄は中空である。 地下峯に削枝を生す。	
ec.	Phragmites japonica STEUD	ジョン	チシバリ	本州、四国,九州,新珠 Formosa, Korea, China, Manchiria	河畔,山野,砂礫地巌生,河川上流 地を好む。髄は中空である。稈は枝 なし。地上茎に匍枝を生ず。	
4	Arundo Donax LINNAÉUS	ヨンタケ	ダンチク	本州西南部,四国,九州,琉珠 Formosa, China, Mediter ameans ea 沿岸	河畔の砂礫地,河川下流を好む。 稈に枝を生じ,髄は充実する。 根茎は太く短い。 2~3年生存。	熱帯地方に は数種自生 する。
ю	Miscauthus saechariflovus HACK	大 ショナト	オキゥンガナ	北海道,本州,四国,九州 Kores , Manchira ,N一china,	原野、河岸、湿地、水辺、河川下流 を好む。稈に小枝を生す。 稈は細く、鼈は充実する。	

Sakhalin,本州北部に自生するものをキタヨシPhragmites communis TRINIUSと称し,広く分布する。 本州籍根地方に自生するものをハコネヨシPhragmites Nakaiana HONDAと称し,地方的な種である。 ヨシと属を異にするヨシタケの裁培変種をフィリダンチク(セィヨウダンチク)Arundo Donax・LINNAEUS var versicola KUNTHと称し,観賞用として用いられる。 W.

第2表 ヨン類及び類似植物の形態比較表

r	1	<u> </u>	T 7'		THE STATE OF THE S	1
殖	果実の 発芽性	4.土.原	水中 水深30m以内	型	極土上	翻 日
彝	₽¥I	地下基	地下秦	地上荃 (5~20m)	地下塞	地下基
·	稈に対す る角度	25~30°	°07 ~03	40~45°	∓, 92	30 ¥
揪	葉片巾	4.5~5.0 (cm)	4.0~5.0	2.4~5.0	2.0~2.5	1.0~3.0
	葉片長	50 (cm)	45~55	40~55	50~70	40~80
	¥0 ¥	25~33 (mm)	12~16	7~20	25~35	6~15
地下基	松	300 ± (cm)	∓ 002	110∼ 200±	∓002 200±	100 +
-44	祭展	100 ± (cm)	80 ±	20 ±	30∼90 ±	20~50 土
	莱数	15~18	9~13	15~30	20~25	9~15
	桿の径	20~25 (mm)	12~15	8~8	1.5~3.0	5~10
(韓)	節間長	20 (mm) 葉鞘より長い	29 葉鞘より長い	12 薬鞘より短い	葉輎より短い	薬輪より長い
地上	侧枝	有り		有り		
argind _e	稗 長	2.0~4.0 有9	4.0~4.5 無し	1.5~3.0 有り	2.0~4.0 有り	1.0~2.5 有り
	極	9 F//ヨシ (セイコ/ヨシ)	ション ション (イン)	ッルヨシ (デンバリ)	ヨンタケ (ウドヨシ)	ルギョン (オギ)
halp of the Market Principle	JQ.		2	60	4	s.

三年

5. 埋蔵文化財

1. 安満遺跡

所 在 地 高槻市高垣町 2 4 4

調 查面 覆 470 m²

調 查期間 昭和49年5月24日~6月5日

調查経過

当調査区は安満遺跡の区割では東1A~Bにあたり、昭和47年度および昭和48年5~6月にかけて調査を実施した地区(報告書刊行済み)に隣接している。ことに個人住宅の建設が予定されたため発掘調査を実施した。排土置場等の関係で実際の調査面積は東西3m×南北20mの狭小なものとなった。

潰構

ほぼ南北方向の幅 $0.6 \, m$, 深さ $0.15 \, m$ の溝が検出された他, 直径 $0.5 \, m$, 深さ $0.3 \, m$ 程度の柱穴数個と直径 $0.3 \, m$, 深さ $0.2 \, m$ 程度の柱穴 10数個が検出されたが, 調査範囲が検小なために明確に建物などを確認することはできなかった。

遺物

瓦器, 須恵器, 土師器などが若干検出された。

所 晃

中世村落の一部を調査したが、遺構の性格を知るにはいたらなかった。しかし、当調査区を含め北側には中世村落の遺構が拡がっていることが確認された。

2. 安満遺跡

所 在 地 高槻市安満東之町 4 0 4

調查面積 450 ㎡

調 查期間 昭和49年8月5日~8月9日

調查経過

当調査区は北6地区(安満遺跡の地区割)で国鉄東海道本線と西国街道にはさまれている。昭和48年2・3月にかけて調査した地区の東側100mにあたる。この場所に駐車場が建設されることになったため計画地の中央部に幅1.5mのトレンチを十文字に設定して調査を行なった。

濇 橨

トレンチの壁面で土層を観察すると、耕土(0.15 m)、 床土(0.17 m)、灰色粘土(0.25 m)、黄灰色砂質土の 堆積順で黄灰色砂質土がこの付近での地山である。いづれ の層においても遺構らしきものは確認されなかった。

溜 物

灰色砂質土から弥生式土器、土師器の破片が若干検出された。

所 見

若干の遺物が検出されただけで安満遺跡の北限を示すよ うである。

3. 安満遺跡

所 在 地 高槻市高垣町 262-1

調 查期間 昭和50年3月5日~3月10日

調查経過

当該地は10-J・N地区にあたり、昭和47年から昭和48年にかけて調査した中世集落跡と昭和48年12月に国庫補助事業として調査した地区の中間である。近年の安満遺跡東方の調査によって、この地区に掘立柱建物を中心とする遺構が密に拡がっているものとおもわれるため調査を実施した。調査対象の水田が三角形を呈していたため、南北約50mのトレンチを設定した。

遺 精

トレンチの北側で土層を観察すると耕土(0.1 m), 黄褐色土(0.1 m), 灰褐色土(0.4 m), 暗褐色土(0.4 m), 暗褐色土(0.4 m), 暗褐色土(0.4 m), 黄褐色砂質土の堆積順であるが,トレンチ中央から南側では灰褐色土層下に黄褐色砂質土あるいは灰色砂礫が0.5~0.6 m堆積している。昭和48年末に調査した地区の南端でも黄褐色砂礫の堆積した構が,それ以前の付近の調査でも砂礫層が確認されており,西北から南東にかけて砂礫層の堆積した幅広い溝が流れていたものとおもわれる。この砂礫層の上面から径0.6 m程度,深さ0.3~0.5 mのピットが3個断面で観察されたが,捆立柱建物の柱穴か他の遺構かは確認できなかった。

溃 物

灰褐色土, 暗褐色土層内から土師器, 須恵器が出土した。 所 見

安満遺跡東方の集落跡の拡がりを確認することができたが、遺構の性格を知ることができなかった。今回調査した地区では砂礫層の上から梱さくした遺構が確認され、檜尾川の濫乱原上に集落を営んでいることが知られる。

今年度調査を実施した天川遺跡など、中世集落を知る資料が増加しているのとあわせて今後ともこの付近の調査が 重要である。

4. 塚脇 Z - 1 号墳

所 在 地 高槻市黄金の里1丁目52

調査面積 750㎡

調 査期間 昭和49年3月20日~3月30日

調査経過

塚脇古墳群は昭和38年・45年の2度の発掘調査や分 布調査等によってよく知られている古墳群である。ところ が、当古墳は昭和49年3月に高野宅の敷地内で偶然に発見されたもので、その存在は現在まで知られていなかった。 そこで高槻市教育委員会は高野氏の許可を得て、昭和49年3月20日より発掘調査を実施した。

古墳の位置は帯仕山南斜面標高90mのところにあり、 塚脇1号墳の北方にあたる。

遺構

調査当初より墳丘は遺存せず、主体部である横穴式石室も天井石等はなく、その一部は露出していた。石室の石材は花崗岩を使用しており、奥壁および東西両壁の基底石と東側壁の一部に、二段目まで石積が遺存していたが、両側壁南辺は石積がなく抜き跡が検出された。なお閉塞の有無は不明。平面形は無袖の形式で、内法は長さ5.4 m、幅1.3 mになる。床面は花崗岩の割石で敷きつめられていて、奥壁から2.8 m以南では若干の山石を使用している。敷石の下には幅25cm、深さ8cm程度の排水溝が奥壁直前から南へ石室および羨道の中央を縦貫している。

掘方は西側上部が削平されているが、下辺で幅 3.5 mを 測り、石室幅に比して大きくなっている。また、その断面 は矩形をなしている。

墳形および墳丘規模はトレンチ調査の結果、幅 1.3 mの 豪をめぐらした一辺 10.3 mの方墳であることがわかった。

遺物

鉄製品は全て石室内から出土していて、鉄製刀子!点、 鉄製留め金具 2 点、鉄釘 3 0 余点、不明鉄片 4 点等がある。 土器は須恵器と土師器があり、須恵器は若干の甕片が石 室内埋土や排土の中から出土している。土師器は排水溝中 にまとまって出土したものと、排土中から別個体のもの 1

所 見

点が出土している。

鉄製品が敷石上面と敷石下から出土したものとの2つに大きく分かれること、および排水構中から土師器が出土したことから、追葬が行なわれていたことがわかる。なお土器は細片のため時期の判別は困難である。しかし、石室の規模・形態から6世紀末~7世紀前半頃と推定される。

5. 狐塚古墳群

所 在 地 高槻市郡家新町

調 査面積 1250㎡

調 査期間 昭和49年7月20日~8月24日

調査経過

高槻市立総合福祉センター建設予定地に古墳時代中期の 共同墓地が、新しく見つかったのは昭和48年7月末であった。遺跡は第2次範囲確認調査によって西に約60mま で拡がっていると推定された。

今回,同建設予定地内老人福祉センター建設に先立って 発掘調査を実施した。

遺 構

調査範囲北側でピット 5 個と方形土城墓 1 基と S 字状の長さ 4m,幅 0.6m,深さ 0.2mの溝を検出した。

遺物

床土下より埴輪片が若干出土した。

所 見

方墳の西一帯に分布する土坛墓群の南限と西限を確認した。その結果、遺構の分布範囲は東西 100 m, 南北100 m におよび、現在の盛土下にも、なお土坛墓群が埋没していることが判明した。

6. 塚原 〇 - 1 号墳

所 在 地 高槻市塚原1丁目9・20

調 杳 面 積 105 m²

調 查期間 昭和49年10月28日~11月11日

調查経過

塚原古墳群は阿武山の南麓に100基余の古墳が群集する大阪でも代表的な古墳時代後期の群集墳である。これらの多くの古墳は土取り、宅地造成等によって過半数のものが消滅した。今回調査した〇ー1号墳は大谷池のすぐ東側にある南向き斜面に位置する。全日空(株)寮の建設計画地内にあるところから当社と保存について話し合いを重ねた結果、古墳範囲については公園として保存されることとなった。そこで、墳丘周辺部において範囲確認および外辺部の発掘調査を実施した。

遺構

古墳の外形実測をおこなった結果、墳丘の直径 18 m, 高さ 2.5 mの円墳であることが判明した。この古墳は横穴 式石室の石組が抜き取られており約 1 mの落ち込みとなっ て、石室の一部が露出している。墳丘北側と西側の一部で 周溝と考えられる幅 0.6 m,深さ 0.2 mの溝を検出し、南 では石室から南に延びた幅 1 m,深さ 0.5 mの断面 V字状 の排水溝を長さ約 5 mにわたって検出した。

遺 物

墳丘南東部の盛土中より弥生式土器の高杯脚部を1点検出したほか、排水溝上面から須恵器片23点を検出した。その中には装飾器台に付けられた人形などめずらしい遺物も出土している。

所 見

古墳の周辺部を帯状に調査したのみで、内部については 不明である。塚原古墳群の中でも大きな墳丘と装飾器台を 持つことなど考えれば有力な首長の家族墓であろう。また、 1点ではあるが弥生式土器の出土したことは付近に遺跡の 存在を予測させる。

7. 番山古墳

所 在 地 高槻市上土室 5 丁目 4 1 8-1

調 香面積 137m²

調 查期間 昭和50年2月10日

調査経過

番山古墳の東に位置する。当該地に個人の住宅建設が計画されたため、調査を実施した。

調査地が番山古墳外堤に隣接するところから外堤外の遺 構の存在についてトレンチ調査を行う。

遺構

層序は盛土(0.8 m), 耕土(0.2 m), 黄褐色砂質土(地山)である。遺糟らしきものはない。

所 見

当該地と古墳外堤との間には幅 0.6 mの水路および幅 0.6 mの単道があり、今回の調査は番山古墳の外である。

8 奥坂古墳群

所 在 地 高槻市別所本町 30-1 他

調査面積 44.280㎡の一部

調 查期間 昭和50年2月12日~2月28日

調查経過

当該地は紅茸山遺跡、紅茸山古墳群の西に位置する。以前、市立第八中学校建設時に周辺の分布調査を行なった際、 東洋紡績(株)の敷地内で古墳3基を発見している。

今回, 市立仮称磐手第二小学校建設が計画されたため, 予定地内で調査が可能な地点について試掘調査を実施した。

遺 構

丘陵の南斜面一帯で横穴式石室と古墳の濠を検出した。特 に横穴式石室は幅0.5m,長さ約2.5mの小規模なものである。

濇 物

横穴式石室内に副葬されていた3セットの蓋杯を石室内のほぼ中央に検出した。(約7世紀前半)

所 見

建設予定地全面にわたる調査が不可能なため、数ケ所のトレンチ調査を実施したが、今回の調査で確認出来ることは丘陵の南斜面一帯には古墳時代後期の古墳が数基存在していると考えられる。一方、他の地域については一応遺跡は存在しないものと考えられるが、十分な調査が出来ない状況下からみで樹木が伐採された時点で一定の試掘が必要であると考えられる。

9. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市郡家本町 3 1 5-1

調 查面積 100m²

調 查期間 昭和49年3月11日~20日

調査経過

当該地は过子・下ノ口線と郡家茨木線の交差する地点の 西北角にあたり阿久刀神社の南 1 5 0 mのところである。 ここに個人住宅の建設が予定されたため、史跡指定地より 北へはずれているが郡衙に関連する遺構の拡がりが想定さ れたため調査を実施した。

遺構

耕土(0.2 m), 暗褐色土(0.2 m)の堆積で遺構は比較的浅いところから検出される。

調査区の西半分からは細かい 河 原 石 を 敷 き つ め て いるのが検出された。調査区の東半分では 1 間×2 間(柱間 2.2 m)の建物 1 棟を確認することができたほか, この 建物と同方向の幅 1.4 m, 深さ 0.1 mの溝状の落ち込みを 検出した。(建物の方向は N-7~Wである)時期は奈良時代であるが, この建物以外の小柱穴からは瓦器が検出されていて奈良時代から中世にかけての遺構が重複している ようである。

遺 物

暗褐色土層から土師器,須恵器が若干検出された。

所 見

調査範囲が狭小なため、建物が1間×2間なのか、それ以上の規模であるかを確認することはできなかったが、都 衙関係の建物群が史跡指定地の北側にもかなりの範囲で拡 がっていることを確認した。また、石敷についても性格を 知るにはいたらなかったが、今後この付近の調査が重要と なるであろう。

10. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市川西町 1 丁目 1 2 番 9 5 1

調查面積 475 ㎡

調 查期間 昭和49年8月10日~9月11日

調査経過

当該地は川西小学校の約100m東側の住宅地内に残された水田で、宅地造成工事が予定されたためこれに先立って調査を行なった。造成予定地が南北に長いために幅2mで南北52mのトレンチを設定して調査を行なった。

遺構

トレンチが長いため北側と南側では土層の差異がある。 北側では耕土(0.2 m), 茶褐色土(0.3 m), 暗褐色土(0.3 m), 暗灰色土(0.6 m), 茶 褐 色土 の 堆 積順で ある。中央より南側では砂層,粘土層が複雑に重なり合っていて遺構も検出されたかった。

トレンチの中央より北側では土城墓とおもわれる遺構が4基検出された。完掘されたものは2基だけである。1基は幅0.8m,長さ2m,深さ0.5 mで他の1基は幅0.6m,長さ1.2m,深さ0.3 mを測る。方向はNW-SEのものが3基、他はこれにほぼ直交するものである。また、トレンチ中央部で深さ0.1m,一辺約4mの方形竪穴状の遺構が検出されたが、柱穴らしきものは検出されず住居跡かどうかは不明である。

造物

暗褐色土層および暗灰色土層から土師器,須恵器,弥生 式土器が検出されたが調査区南側の砂層や粘土層からはまったく検出されなかった。

所 見

現在の芥川に近い場所を調査したためであろうか、遺物 や遺構が確認されない砂層や粘土層からなる部分もあるが 土塩墓群とおもわれる遺構を確認した。

当該地および本年報に収録した付近の調査や以前府教委の調査した地区とあわせて,川西小学校の東側の地域には 方形周溝墓群を中心とした墓域があったことを確認した。

11. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市川西町1丁目955番地の4

調 査面積 9 4 ㎡

調 查期間 昭和49年8月10日~9月13日

調査経過

当該地は川西小学校より50m東側の住宅地内で、個人住宅の建設が予定されたので、発掘調査を実施した。調査地はすでに1.5mの盛土が行なわれていたため重機を使用して3m×4mの調査拡を設けた。

遺構

土層は耕土(0.2 m)黄灰色土(0.3 m)灰褐色土(0.2 m)暗灰色土(0.6 m)黄褐色土の堆積順であり、いづれの層からも遺構らしきものは確認されなかった。

遺物

暗褐色土層内から須恵器、土師器の破片を若干検出した だけである。

所 見

調査区域が狭小なために遺構を検出することはできなかったが、郡衙関係の遺構が東方へ拡がっていることが想像される。

12. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市清福寺町 315-3

調查面積 165 ㎡

調 查期間 昭和49年9月30日~10月17日

調查経過

当該地は49年3月に調査した地区の東側(市道辻子・下の口線を隔てて)にあたる。個人住宅兼事務所の建設が 予定されたため発掘調査を実施した。

滑 – – – – –

耕土(0.3 m)床土(0.2 m)暗褐色土(0.3 m)黄褐色土属の堆積順で黄褐色土属面で潰構が検出された。

検出された遺構は土塩墓2基と建物が1棟ある。

土城墓はいずれも調査区の壁ぎわで検出されたもので全 長はわからないが幅 0.6m, 深さ 0.2 mを測る。方向はNW -SEとこれにほぼ直交するものである。

建物は $N-83^{\circ}-E$ の方向で1間 \times 2間が確認されたが,調査区の西側につづくものとおもわれる。(柱間は3.8~m, 2.1~mである。)

この建物の柱穴の掘り方は一辺約1mを測り、深さ0.4 m程度のものである。

溃 物

暗褐色土層内より土師器、須恵器、弥生式土器が検出された。

所 見

市道辻子・下の口線を隔てて西側で調査したものと合わせて史跡指定地より北側に建物群が拡がっていることを示している。

13. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市清福寺町 8 19-1

調査面積 213m²

調 查期間 昭和49年10月14日~10月17日

調查経過

当該地は川西小学校の東北約 2 5 0 mの地域で嶋上郡衙跡の東端にあたる。個人住宅の建設が予定されたため、確認調査を実施した。畑地の中央にあたるため、2 m×3 mの試掘拡を設けて土層の観察・遺構の有無を調査した。

遺構

試掘鉱の壁面で土層を観察すると耕土(0.8 m), 黄灰色土(0.4 m), 暗褐色土の堆積順である。茶褐色土層上面で直径0.3 m程度の柱穴を確認することができ, また地山とおもわれる黄褐色土層面で幅1.2 m, 深さ0.3 mの溝を確認することができた。

遺物

暗褐色土層かよび茶褐色土層より弥生式土器,土師器, 須恵器を検出した。

所 見

調査した範囲が限られているため、遺構の性格や時期を 知ることはできなかったが、嶋上郡衙関係の遺構の拡がり を確認した。

14. 郡家川西遺跡

所 在 地 高槻市郡家新町 350-8

調査面積 330㎡

調 查期間 昭和49年10月18日

調查経過

当該地は史跡・鳴上郡衙跡附寺跡の南西に位置し、郡家 川西遺跡の西端と推定されているところである。今回,個 人住宅の建設が計画されたため、調査を実施した。

調査は幅 2m, 長さ 10mのトレンチを設け、遺構の状況を知るため試掘調査を行った。

遺障

層序は盛土(0.6 m), 耕土(0.2 m), 黄褐色土(0.3 m), 灰色粘土(0.1 m), 黄褐色砂質粘土(地山)である。遺物は検出されず,また遺構らしきものは確認されなかった。

所 見

当該地が遺跡の西端に位置するところから試掘調査を実施したが、遺構らしきものが確認されなかったため、遺跡 の西端は若干東方にあるものと推定される。

15. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市清福寺町8-25

調 查面積 65㎡

調 查期間 昭和49年12月9日~12月13日

調査経過

当調査区は昭和48年11月に調査した28-N地区の10m北側にあたり、個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

濇 檔

地表面下約1.2 mで茶褐色土層(礫まじり)の地山になり、上層は約0.8 mの盛土でありその下0.4 mは黒褐色土層で弥生~奈良時代の遺物を包含する整地層である。遺構は土斑墓3基とピット8個を検出したが、東の5 mはおよそ0.2 m低くなって遺構は検出されず、地山も青灰色砂礫層であった。

遺 物

黒褐色土層である整地層より弥生式土器片及び奈良時代

の土師釜片を若干検出した。

所 見

外川より約150 m西にあって、郡家川西遺跡の東限と考えられる。この地点より約100 m南においては弥生時代中期の共同墓地が確認されているので、この付近一帯も弥生時代の墓域と推定される。

16. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市川西町1丁目955の6

調 杳 面 積 210 m²

調 查期間 昭和49年12月12日~12月23日

調査経過

当該地は川西小学校の東側の住宅地内にあり、共同住宅 の建設が予定されたため調査を行なった。

すでに、1.6 mの盛土が行なわれていたが重機を使用して堀さくした。排土置場や付近の住宅などから幅2m,長さ 1.0 mの南北方向のトレンチを設けて調査を行なった。

遺構

トレンチの壁面で土層の観察をすると、耕土(0.2 m) 床土(0.2 m),褐色土(0.2 m),暗褐色土(0.4 m)の堆 精順で地山は黄褐色土である。

トレンチ中央部で探さ 0.3 m, 幅 1 mの溝状 遺構が東西 方向に確認された他は何も検出されなかった。

造物

褐色土,暗褐色土層中から土師器,須恵器などが検出された。また白磁碗の破片 1 個が検出された。

所 見

史跡指定地に近く、また当調査区の北側では方形周溝墓 群なども検出されているため、密な状態で遺構が残存して いると想像されるが、狭小な調査範囲では遺構の性格や時 期などを知ることができず、遺構の拡がりを確認したのみ である。

17. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市清福寺町 891-2

調 查面 積 600 m² (東西 40 m・南北 15 m)

調 查期間 昭和49年12月13日~1月23日

調査経過

当調査地区は昭和48年1月に発掘調査した地域の東側 にあたり、府道の南側に位置している。

今回,水田が宅地化されることになったため,これに先 立って発掘調査を実施した。

遺構

発掘区の北側断面によると床土下に黒色粘土層(整地層)

があり、それを切って黄灰色砂層(厚さ0.2 m)の流路跡がある。 窓地層の直下は地山であって、その西半分は青灰色礫層からなり、その部分には遺構を検出できなかった。また、東半分は青灰色粘土層であって、方形住居跡 6 基と土塩基 4 基、10数個の柱穴を検出した。また、歴史時代の落ちとみ 2 ケ所は黒色粘土層を掘っている。

1号住居跡:南北 6.7 m・東西 6 m・南西隅石敷穴

2号住居跡:南北 5.7 m · 東西 5.7 m

3号住居跡:東西 5.6 m

4号住居跡:東西 3.9 m

5号住居跡:不明

6号住居跡:不明

遺物

整地層より弥生~鎌倉時代の土器片を多数検出したほか、5号住居跡の柱穴より完形壺 1個を検出した。2号住居跡からは滑石製ボタン(石帯片?)が1個出土した。歴史時代の落ち込みからは土釜,須恵器,土師器片が出土したが、それらは平安時代に属すると考えられる。

所 見

阿久刀神社を北限に弥生時代後期の集落が形成され、郡 家川西遺跡の北部を中心にした弥生時代の遺跡分布を確認 した意義は大きい。

18. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市清福寺町805-1

調 査面積 150㎡

調 查期間 昭和50年1月20日~2月26日

調査経過

当調査地区は昭和48年3月に発掘調査した北側の続き にあたり、歴史・古墳・弥生の各時代の諸遺構と芥川の氾 濫原と推測されるものを検出した。

今回も南側と同様、個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

遺構

床土下で茶褐色の地山に暗灰褐色土層の落ち込んた歴史時代のピット20数個を検出したが、建物にまとまるものはなかった。東端で芥川の流路らしき青灰色砂礫層の落ち込みを検出した。古墳時代の遺構は調査区の南西隅を西北~東南方向に走る幅2.1m・深さ0.5mの溝でその中には須恵器・土師器の完形品を含む黒色の土が推積し、その西岸でピット数個を検出した。古墳時代前期では、芥川の浸蝕によってその岸は高さ1.5mの崖となり、その崖からさらに4.5m東でも5一段落ちる崖(河岸)を検出した。

遺物

古墳時代の溝からは五世紀末の須恵器・土師器の完形品を含む、土器片多数を検出した。また、その上面で滑石製の紡錘車 1 個を検出した。旧芥川の川岸近くの青灰色砂礫堆積土層からは弥生後期~古墳前期の土器片多数が出土している。

所 見

今回調査したところは、芥川より約50 m 西にあって、 古墳時代前期にはこの辺一帯が芥川の氾濫原であった。しかし、五世紀末になると、河岸は東に約15 m 移動していることを確認した。

19. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市清福寺町

調査面積 140m2

調 査期間 昭和50年1月23日~1月30日

調査経過

昭和46年,遺跡の中心部約90,000㎡が嶋上郡衙跡附 寺跡として史跡に指定された。しかし、近年において同指 定地周辺部の宅地開発に伴う、用水路の改修工事を行うこ とになったので、同工事に先立ち、昭和44年5月に発掘 調査した北国銀行寮の東側の南北方向の水路を長さ70m にわたり、発掘調査を実施した。

遺 構

調査区には水路を含む幅2m,長さ70mのトレンチを設定した。層序は改修等によって攪乱されていたが、現水田面下0.7mで黄褐色粘土層(地山)に達した。トレンチ中央においては旧水路のため削られており、幅1mの青灰色砂礫層が推積していた。遺標は旧水路の外側に残った地山面において7個の柱穴を、また南側では植物遺体を包蔵する落ち込み27所を、さらに北側にはトレンチと斜めに交差する弥生時代後期の幅1m,深さ1.1mのV字溝を検出した。

遺物

旧水路推積土と2ヶ所の落ち込みより若干の須恵器片。 土師器片を出土した。

所 見

調査区が南北に長く狭いために不明確であるが、すぐ西側の奈良時代の建物群がこの水路の東まで拡がっていることを確認できた。また、トレンチと交差するV字溝は、かってこの調査区に西接する北国銀行寮敷地内で検出したV字溝と連結するものである。しかし、このV字溝がどのような性格のものかはなお明らかでない。おそらく、これより東に延びていることは推定するに難くない。

20. 嶋上郡衙跡

所 在 地 高槻市川西町1丁目960

調 杳面 積 407 ㎡

調 查期間 昭和50年2月20日~3月8日

調查経過

川西小学校の正門のすぐ東側にある当該地は、分譲住宅の建設に先立ち、発掘調査を実施した。調査地は、すでに 0.7 mの盛土が行なわれていたので、機械力(ユンボ)によって敷地を東西に 2 等分し反転しながら調査を行なった。トレンチ中央では新しい池跡があって、その部分については東側で掘らないことにした。

構

大小約25個のピットと土拡墓2基を検出した。中央部 に幅18mの新しい池が板柵によって1.5mの深さに掘られ、調査面積の大部分は攪乱されていた。

4 49

池跡より弥生式土器片, 瓦器片を若干と新しい陶器, 磁器が多数見られた。

見 見

史跡 嶋上郡衙跡附寺跡 の指定地のすぐ東側になる当該地では、奈良時代の遺構、遺物は検出されず指定地内に 部衙跡は収まっていると考えられる。

21. 嶋上郡衙跡

亦 在 地 高槻市川西町1丁目959他

調査面積 483㎡

圖 查期間 昭和50年2月25日~3月24日

調查経過

当調査地は川西小学校の東隣住宅地の一角にあって、昭和47年6月に方形周灣墓群を発掘調査した地区から南西50mの所にある。

調査地は、すでに廃土が 0.8 m行なわれた宅地であって、 個人住宅の建設に先立って発掘調査を実施した。

海 熔

弥生時代中期の方形周溝墓 8 基と土城墓 1 4 基のほか柱 穴 1 0 数個を検出した。

[1号方形周溝薫]

西半分を検出。南北辺 10 mで西北部に陸橋部を持つ。 主体部は土城墓 1 基が検出され北側溝内に土坻墓 1 基を有 する。

[2号方形周濤墓]

東半分を検出。南北辺 | 2 mで北側中央に陸橋部を持つ。 主体部は土坑墓 4 墓が検出され、南側溝内に土坑墓 ! 基を 行する。・

[3号方形周溝墓]

西半分を検出。南北辺9 mで主体部は検出できなかった。 「土地墓群]

1号方形周溝墓・3号方形周溝墓と2号方形周溝墓の間で検出したが、方向・形状は一定していなかった。

遺 物

方形周溝墓各溝より土器片を少数検出した。

所 見

弥生時代中期の墓地が史跡指定地の東側一帯に設営され、 方形周溝墓群も南北 1 0 0 m範囲にわたって分布している ことが確認された。

22. 郡家今城遺跡

所 在 地 高槻市郡家新町194-5

調査面積 65 m²

調 查期間 昭和50年2月25日~2月28日

調查経過

今回の調査は府立三島高校の東側約200mの地点で個人住宅の増築工事が計画されたので、これに先立って範囲確認調査を実施した。敷地は3.5×5.5mの狭い場所であって2×2mのトレンチを設定した。屬序は盛土(0.6m)・耕土(0.2m)・床土(0.15m)であった。その下には灰褐色砂質土の整地層と考えられる薄い遺物包含層があり、その下は黄褐色砂質土層(地山)になる。遺物は須恵器片・土師器片9点が出土した。遺構は調査区域が狭いため確認出来なかった。

28. 郡家今城遺跡

所 在 地 高槻市今城町 149-1

調查面積 495㎡

調 查期間 昭和50年3月3日~3月4日

調查経過

府立三島高校を中心に約300m四方の範囲が推定される部家今城遺跡は、昭和48年10月の発掘調査によって西を女瀬川・北を西国街道までと遺跡の範囲が明らかになった。今回、三島高校より北東約200m・西国街道より南約50mの当該地において、遺跡範囲確認調査を実施した。敷地中央に東西18m・南北3mの細長いトレンチを設定した。その結果、この地点では地表面下1.1mで地山になることが判明した。その層序は盛土(0.75m)・耕土(0.2m)・床土(0.15m)・黄褐色砂質粘土層(地山)である。トレンチ内においては、遺物、遺構は認められなかった。

24. 宮田遺跡

所 在 地 高槻市宮田町 3 丁目 3 9 他

調 查面積 1,000m²

調 查期間 昭和49年6月10日~7月20日

調査経過

宮田遺跡は昭和 4 7 年に大規模な発掘調査が行われ、鎌倉時代を中心とする中世集落が女瀬川の南岸一帯に拡がっていることが明らかにされた。以前から、弥生~中世にいたる各時代の遺物は、春日神社附近で採集されていたのであるが、縄文時代の新しい資料も加わって大いに問題を発展さすところとなった。今回、春日神社の東方 100 mのところで、道路の南・北両側の水田が宅地造成されることになり、これに先立って発掘調査を実施した。

潰 権

(北区) 耕土の下の床土は 0.7 m もあった。中央東西 方向を東に流れる幅 1 0 m・深さ 1.4 m の河道(旧女瀬川) とその北に幅 1.5 m・深さ 0.6 m の小溝を検出した。

川の堆積土中からは、弥生~古墳時代の遺物と多数の流 木が検出された。河道が埋まった後にできた、奈良時代の 包含層は厚さ0.2 mを測り、河道域の北側には、土拡墓3 基を、同南岸には40数個の柱穴を検出した。

(南区) トレンチ南西隅で3×3間の倉と2×1間の掘立柱建物が重複する柱穴群を検出したほか、調査区の南西隅で交差する幅0.8 m・深さ0.2 mの溝を検出した。北区と約35mの間には遺構は検出できなかった。この南側の一段低い道路敷では、約1mの暗灰色粘土層が堆積していたので池跡と推定される。

遺物

北区の北東隅で先土器時代の翼状剝片が1点出土した。 旧女瀬川の青灰色粘土~礫層からは、弥生式土器・土師器・ 流木が多数出土した。南岸の上部包含層からは奈良時代の 須恵器・土師器片が多数出土した。南区の池跡からは鎌倉 時代の瓦器・土師器・磁器片を少数出土した。

所 見

先士器時代から中世にいたるまで女瀬川の南岸一帯に遺跡の存在を証明した意義は大きい。今回調査した範囲では、遺構として奈良時代の建物群以外の時期は検出されなかったが、東方の鎌倉時代の集落が形成される以前に、一段高い場所を選び奈良時代の集落が形成されたことは、中世集落論を考えるうえで重要である。

25. 天川遺跡

所 在 地 高槻市須賀町

調 查面積 40m²

調 査期間 昭和 4 9 年 1 2 月 2 5 日~ 1 2 月 2 6 日 調 査経過

当遺跡は昭和初期の朝日新聞に掲載された多数の瓦器碗の出土した遺跡と推定されていたが、最近までまったく詳細は判らなかった。

本市交通安全課によって北大冠水路の西岸に自転車道が 設置されることになり、山岸の水田を掘さくしたところ下 記の遺物が検出されたため急拠調査を実施した。

掘さくされた部分を幅 0.5 m, 長さ 8 0 m にわたって断面観察を中心として調査を行なった。

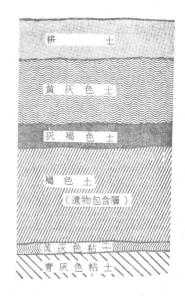
土層は耕土(0.25 m) 黄灰色土(0.4 m) 灰白色粘土(0.13 m) 褐色土層(0.6 m) 青灰色粘土層の堆積順である。いづれの層でも遺構らしきものは検出されなかった。

遺 物

褐色土層内から瓦器,土師器、青磁破片が検出された。 瓦器はいづれも編年的には比較的新しい時代のものである。 所

以前より平安末から鎌倉にかけての集落を知るらえて重要であると指摘されていたが、遺跡として調査されたのは 今回がはじめてである。遺物からみて従来調査されてきた 中世集落と関連するものであり今後の調査に期待される。

天川遺跡の層序





■ 高槻市立仮称埋蔵文化財調査センター

名 称 高槻市立仮称埋蔵文化財調査センター 場 所 高槻市南平台49-6,49-9

総工費 191,268,000円

設 計 株式会社丹青社建築設計事務所

施 工 太田鴻池共同企業体

工事概要 鉄筋コンクリート造 2階建

敷地面積 3,319m²

建物面積 829 m², 延面積 1,547 m²

着 工 昭和50年2月12日

竣工予定 昭和50年9月30日

概 要

高槻市は埋蔵文化財の宝庫といわれるほど遺跡が多く存在し、これらの遺跡から出土する遺物量は膨大なものである。この遺物の整理・収蔵を現在、仮設の整理室・収蔵庫において行なっているが、すでに飽和状態となり資料化するうえに大へん困難な現状にある。これを打開するため昭和49年度の国庫輔助事業として仮称埋蔵文化財調査セン

ターを建設することになったものである。

事業の経過

昭和47年6月 文化財保護審議会より高槻市立仮称郷

土資料館建設計画案答申

昭和49年3月 地方埋蔵文化財調査センター建設事業

(国庫補助事業)の第1号に高槻市内

定

昭和49年5月 仮称埋蔵文化財調査センター建設予算

議決

昭和49年7月 仮称埋蔵文化財調査センター建設準備

推進員委嘱

昭和49年8月 株式会社丹青社建築設計事務所に設計

を委託

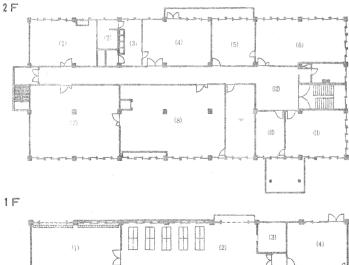
昭和50年!月 株式会社太田鴻池共同企業体に建築の

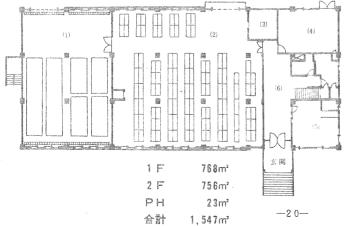
工事請負

昭和50年2月 同着工(昭和50年9月30日竣工予

定)

高槻市立仮称埋蔵文化財調査センター平面図





各部屋別面積

1 F	(1)	特別	収繭	支 室	2 1 6 m²
	(2)	収	蔵	室	$352m^2$
	(3)	発 掘	機具	東庫	1 6 m²
	(4)	機	械	室	4 8 m²
	(5)	管	理	室	$3 6 m^2$
	(6)	赤	0	ル	5 2 m²
	(7)	そ	0	他	4 8 m²
		合		計	768 <i>m</i> ²
2 F	(1)	保存	処理	图 室	5 4 m³
	(2)	暗		室	18m²
	(3)	準	備	室	1 8 m²
	(4)	写		場	5 4 m²
	(5)	図面割	E 理製	図室	3 6 m²
	(6)	研	究	室	7 2 m²
	(7)	収	蔵,	室	1 1 4 m ²
	(8)	整	理	室	1 3 2 m²
	(9)	書庫記	己錄収	納室	3 8 m²
	(10)	会	議	室	2 4 m²
	(11)	事	務	室	4 8 m²
	(12)	D	F.		3 6 m²
	(13)	そ	0	他	$112m^{2}$
		合		計	7 5 6 m²

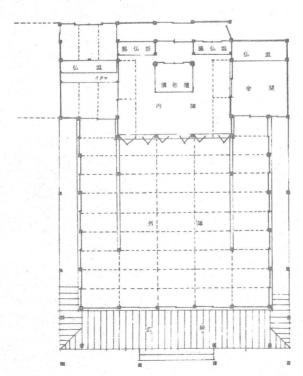
■ 高槻市文化財一覧

種別	件名	所在地	管理者	指定年月日
〔国指定〕				
国 宝	金銅石川年足墓誌			· ·
	付木櫃残(銅釘付)一括	真 上 町	田中伊久	S.27.3.29
重要文化財	木造 聖観音立像 二軀	原	神峯山寺	S.25.8.29
	// 阿弥陀如来坐像	// ,	"	<i>"</i>
	ル 聖観音立像	″	本 山 寺	<i>#</i>
	〃 毘沙門天立像	"	" ,	"
	〃 千手観音坐像	浦堂本町	安岡寺	S.49.6.8
A. A	絹本着色 探花図 石鋭筆	城北町	橋本末吉	S.38.7.1
旧法による重要美術品	石造 灯籠	天 神 町	上宮天満宮	S.17.5.30
史 跡	今城塚古墳	郡家新町	高槻市	S.3 3. 2. 18
"	嶋上郡衙跡附寺跡	清福寺町他	"	S.46.5.27
"	石川年足墓·	真上町	国	"
		,		
〔府指定〕				
史跡	高槻城跡	城内町他	高槻市	S.25.5.1
"	高山右近高槻天主教会堂跡	野見町	"	S.25.5.9
<i>"</i>	西国街道芥川一里塚	芥川 町	芥川東部落会	S.16.5.14
名 勝	摂 津 峡	原・塚 脇	高槻市	S.13. 5.11
"	普門寺庭園	富田町	普門寺	S.46.3.31
有形文化財	普 門寺方丈	"	"	"
"	教宗寺の石槽	芥川町	教 宗 寺	S.49. 3.29
"	八坂神社の石槽	原	八坂神社	"
〔市指定〕				
有形文化財	笹 井家住宅	解体保管中	高槻市	S. 47. 9. 12
"	本山寺文書 2巻	原	本 山 寺	S. 49 . 3 . 30
"	天川水帳(高山帳) 2冊	東天川	森田亮吉	"
"	集間家文書 3巻	柱本町	葉間正造	"
"	成合春日神社雨乞祭具一式	成合町	春日神社	

.



a. 清福寺太子堂



b.正德寺本堂現状略平面図



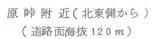


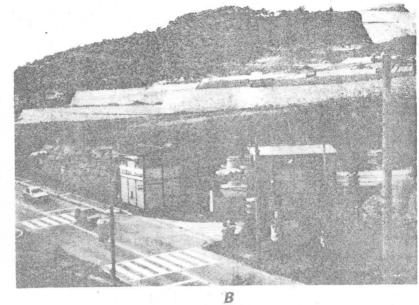
a. 木造十一面観音立像(妙楽寺)

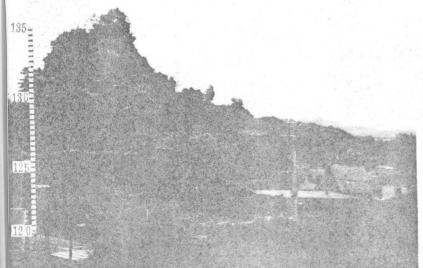


b. 木造大日如来坐像(神宮寺)



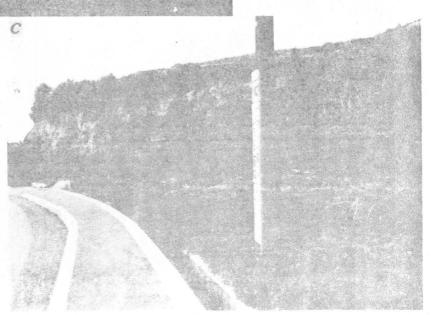


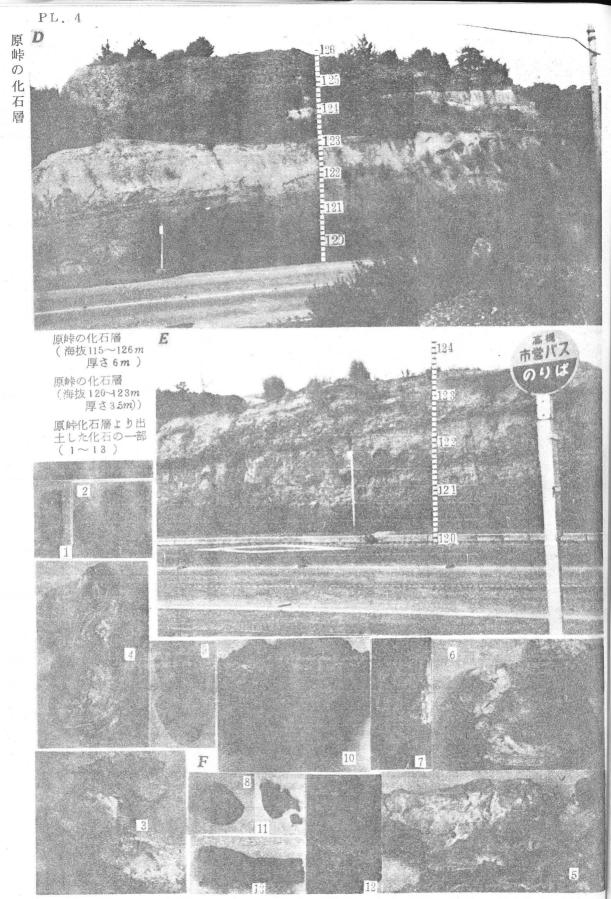




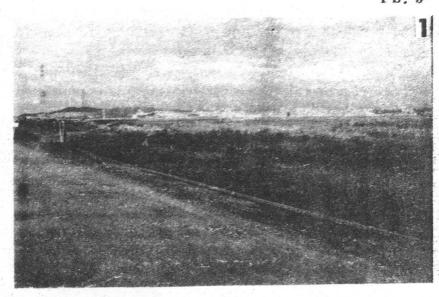
原峠北東隅の化石層(南西側から) (化石層は海抜120~135m,厚さ約15m)



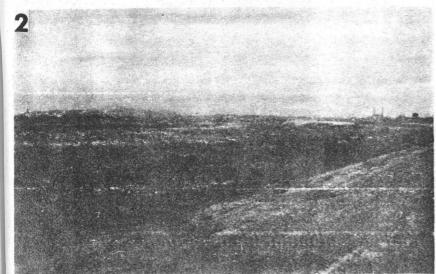




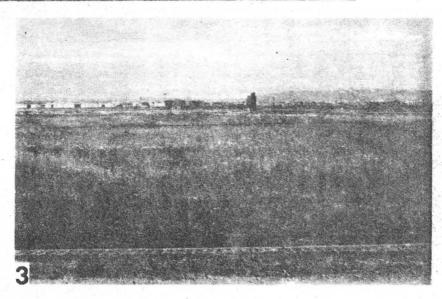
(1) コヅツガイ,(2) オトメガサ,(3) カモメガイ,(4) ナミワガシワ,(5) マガキ,(6) スミノエガキ,(7) イワガキ(8) ハイガイ,(9) ケシカニモリ,(10) ウスラカイ,(11)カエテ/葉),(12) ユウセキハマナツメ(技・棘),(13)アカマツ(材片)



淀川西岸より上流を望む



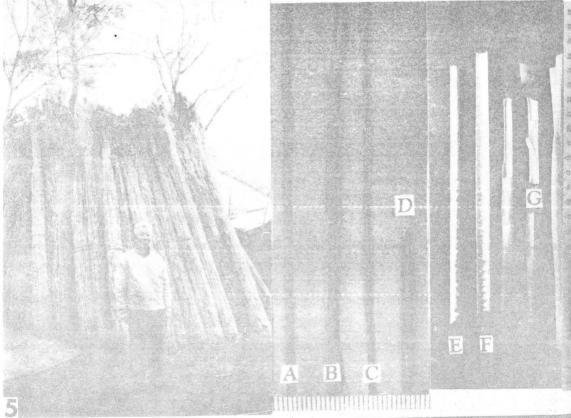
淀川西岸より下流を望む



淀川河川敷内のヨン類群生地(鵜殿)(対岸は枚方市)

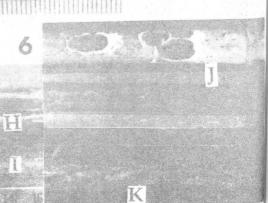
道鵜町の淀川堤防トに 集められたヨシ類の稈材



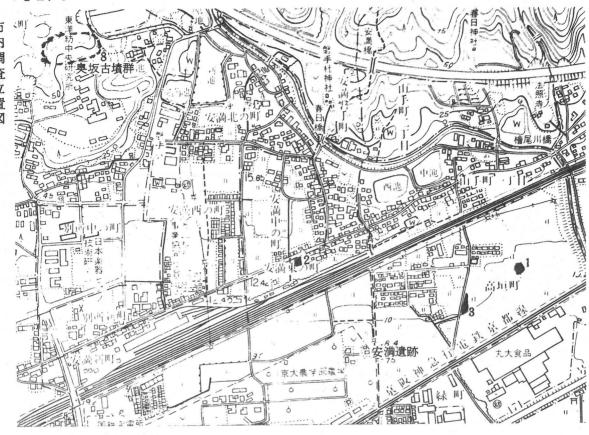


ョン類稈材を整理した状況(川端氏宅)

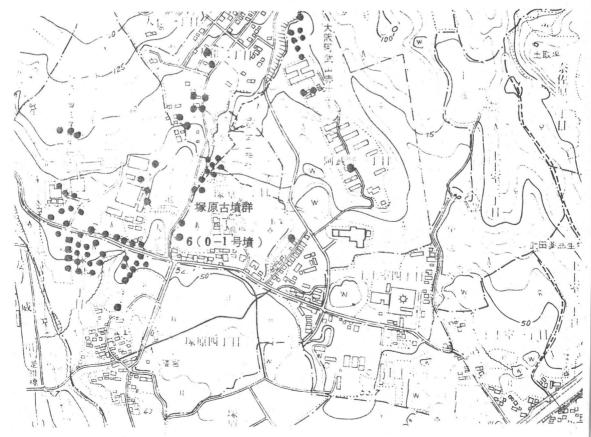
ョン類稈の状況(A~K)



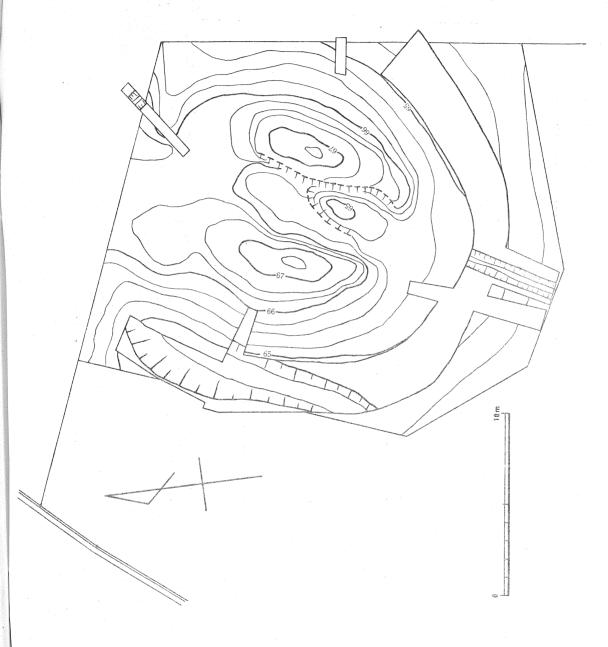
(A) $\exists \nu (\vec{r}_{\nu_J})$, (\vec{B}) \vec{p} \vec{r}_J (\vec{p}_J) \vec{p}_J (\vec{p}_J) \vec{p}_J (\vec{p}_J) $(\vec{p}_$

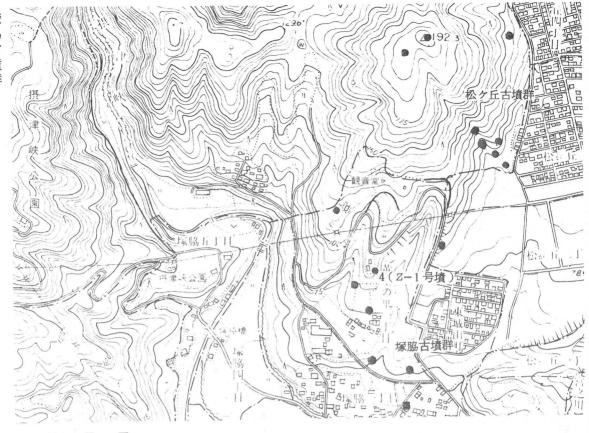


a. 安満遺跡 · 奥坂古墳群



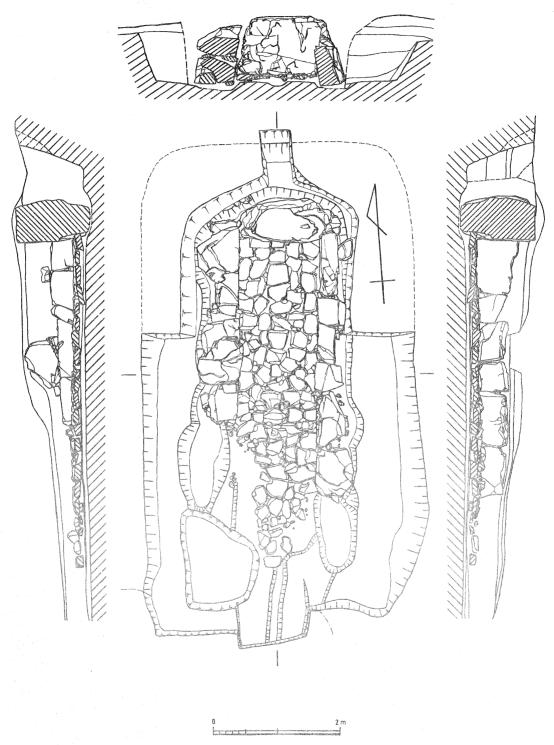
b. 塚原古墳群







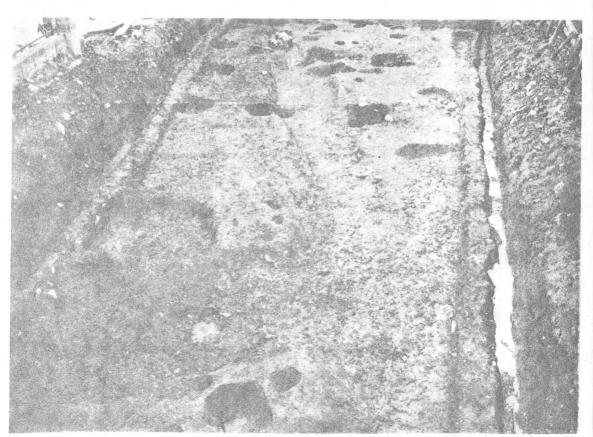
b. 塚脇 3~1号増 5石屋(正面から)



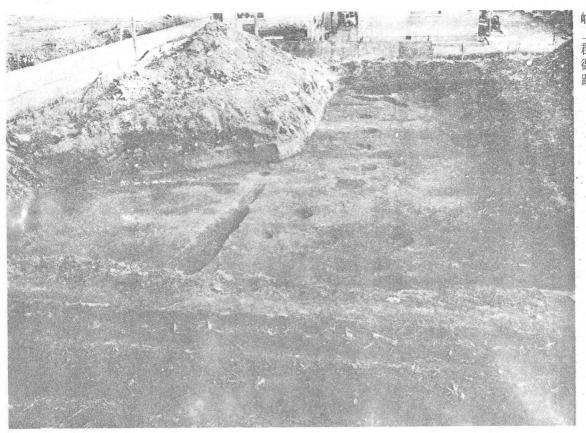
塚脇 Z - 1 号墳・石室実測図



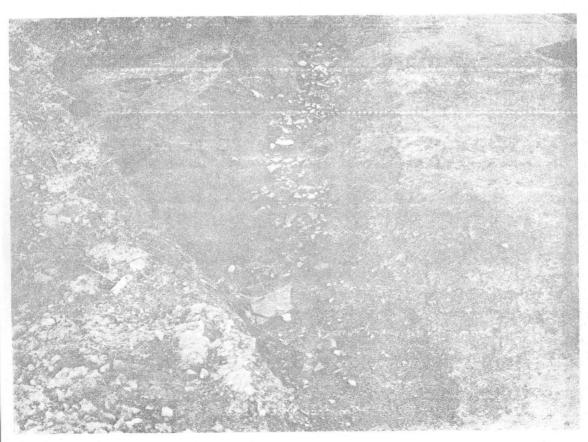
1. 奥坂A-5号墳の石室(正面から)



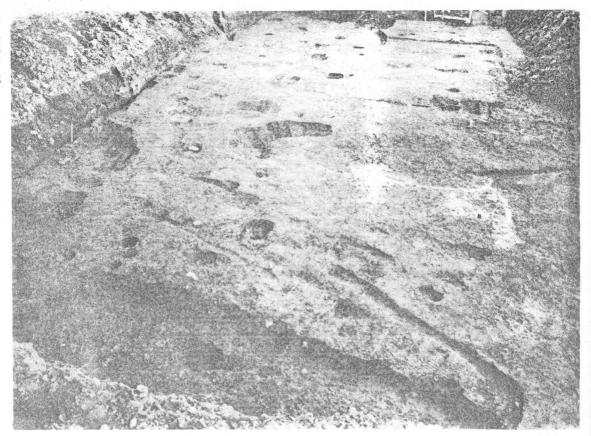
b. 備し柱字群(序側で、・・甲- 12



a. 溝と柱穴群(西側から)(埋-18)



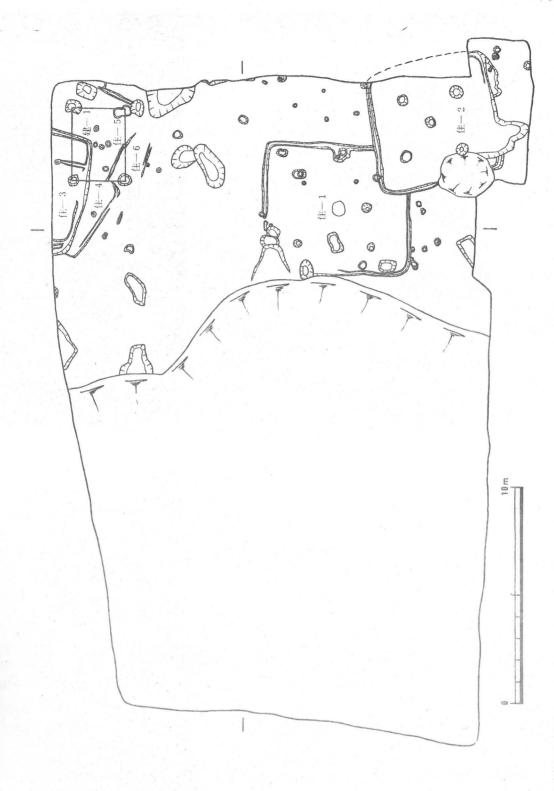
b. 古墳時代の構(東南側から)(埋-18)

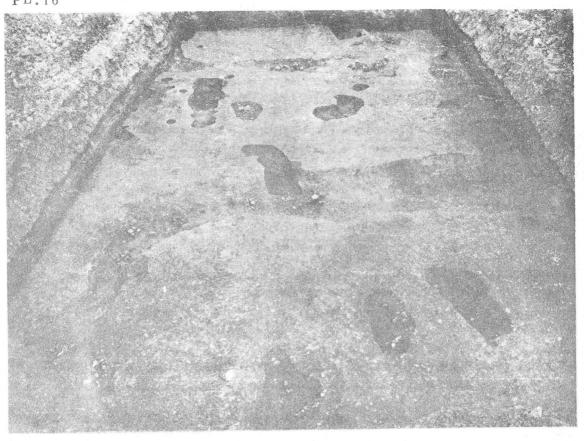


a. 竪穴式住居跡と土拡墓(北側から)(埋-17)

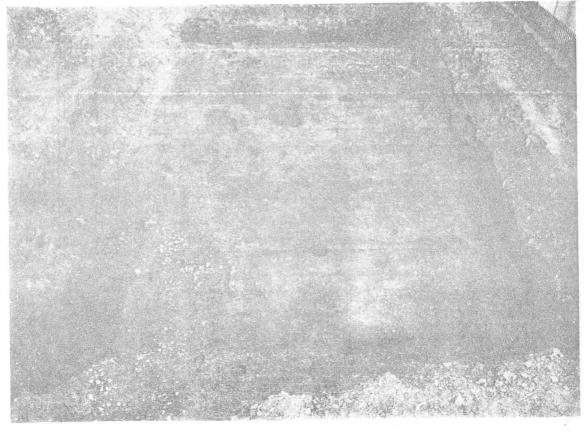


b. 1号・2号住居跡(南側から)(埋-17)

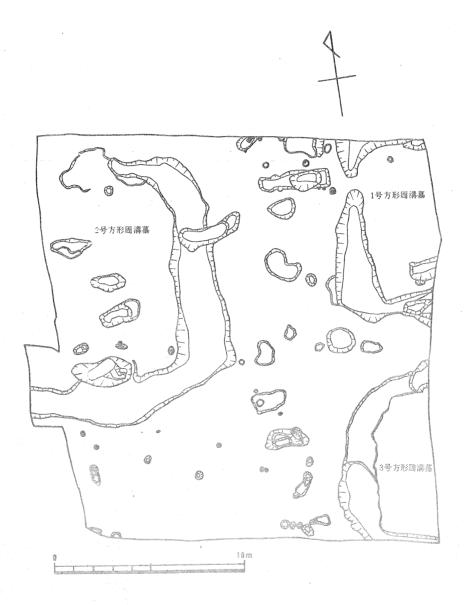


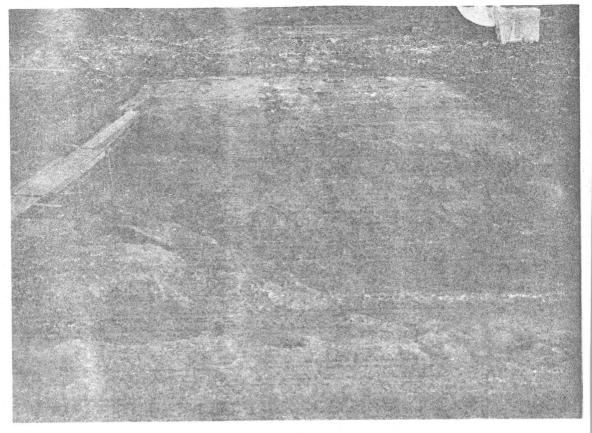


a. 方形周滯墓と土址墓(東側から)(埋-21)

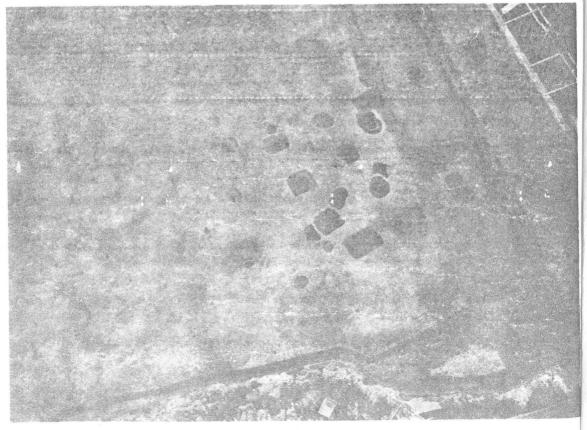


b. 方形周溝幕と土は 集(東側から) (埋 - 21



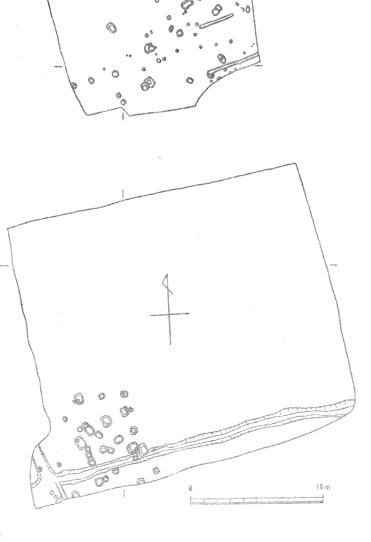


a. 旧女瀬川と柱穴群〔北区〕(北側から)

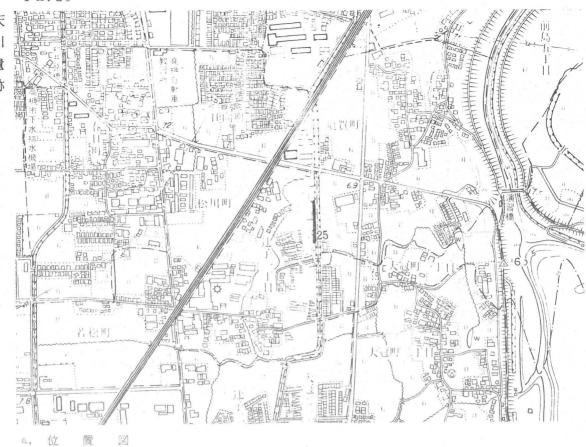


b. 掘立柱建物跡(南区)(西側から)





宮田遺跡の遺標平面図





b. 遺跡全景(北側から)

昭和49年度 高槻市文化財年報

発行 高槻市教育委員会社会教育部社会教育課 大阪府高槻市桃園町2番1号

印刷 邦文社印刷